

稲美町高齢者福祉計画・
第10期介護保険事業計画策定に係る
アンケート調査結果報告書
(概要版)

令和8年3月
稲 美 町

目 次

第1章 調査の概要

1. 調査の目的.....	1
2. 調査の設計.....	1
(1) 調査対象	1
(2) 調査方法	1
(3) 回収数	1
(4) 調査の期間	2
3. 報告書の見方.....	2

第2章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

1. リスクの発生状況.....	3
(1) からだを動かすことについて	3
(2) 食べることについて	8
(3) 毎日の生活	10
(4) 健康	14
2. 稲美町独自設問	15

第3章 在宅介護実態調査

(1) 在宅限界点の向上のための支援・サービス提供体制.....	29
(2) 仕事と介護の両立に向けた支援・サービス提供体制.....	30
(3) 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制.....	32
(4) 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制.....	33

第4章 介護人材実態調査

(1) 各サービス種別の人材の採用・離職状況について.....	41
(2) 外国人職員の国籍別人数と構成比について.....	43

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

令和9年度から11年度までを計画期間とする「稲美町高齢者福祉計画・第10期介護保険事業計画」の策定における基礎調査として実施しました。

2. 調査の設計

(1) 調査対象

調査種別	調査対象者	発送数
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	令和8年1月1日現在、町内にお住まいで、要介護認定を受けていない65歳以上の町民および要支援1・2の認定を受けている65歳以上の町民から無作為抽出	1800件 (1800件)
在宅介護実態調査	町内にお住まいで要介護・要支援認定を受けている65歳以上の町民から無作為抽出	700件 (700件)
介護人材実態調査	町内の介護保険事業所	44件 (32件)

(2) 調査方法

調査種別	配布	回収
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	郵送 (郵送)	郵送及びWeb (郵送及びWeb)
在宅介護実態調査	郵送 (郵送)	郵送及びWeb (郵送)
介護人材実態調査	郵送 (郵送)	郵送 (郵送)

(3) 回収数

調査種別	有効回収数	有効回収率
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	1517件[うち、Web101件] (1454件)	84.3% (80.8%)
在宅介護実態調査	518件[うち、Web42件] (498件)	74.0% (71.1%)
介護人材実態調査	43件 (23件)	97.7% (71.9%)

※ () 内は、前回の実績

(4) 調査の期間

調査種別	調査期間
介護予防・日常生活 圏域二一ズ調査	令和8年1月23日から令和8年2月9日
在宅介護実態調査	令和8年1月23日から令和8年2月9日
介護人材実態調査	令和8年2月24日から令和8年3月9日

3. 報告書の見方

- 基数となるべき実数は（n=〇〇）と表示し、各比率はすべてを 100%として百分率で表し小数点以下第 2 位を四捨五入して算出しました。そのために、百分率の合計が 100%にならないことがあります。
- 質問文の中に複数回答が可能な質問がありますが、その場合、回答の合計は調査数を上回ることがあります。
- 図中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合があります。

第2章 介護予防・日常生活圏域二エズ調査

1. リスクの発生状況

(1) からだを動かすことについて

①運動器の機能低下

1) リスク判定方法

No.	設問内容	選択肢
問2 (1)	階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
問2 (2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
問2 (3)	15分位続けて歩いていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
問2 (4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない
問2 (5)	転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である 3. あまり不安でない 4. 不安でない

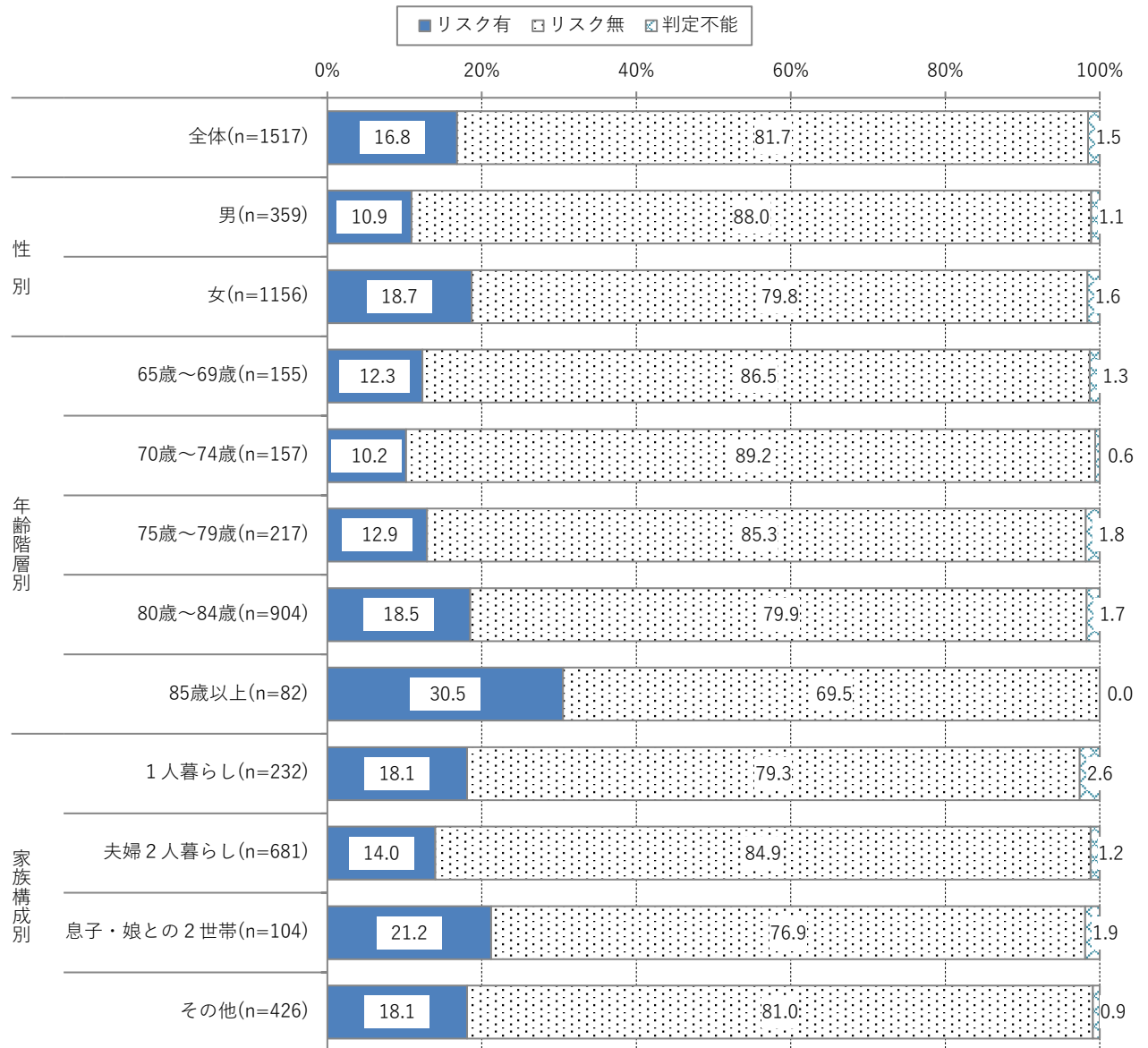
国の判定基準によると、上記の設問のうち、3問以上該当する選択肢(上の表の網掛け箇所)が回答された場合、運動器機能の低下している高齢者と判定されます。

男女別にリスク判定結果をみると、女性は男性に比べてリスク者の割合が7.8ポイント高く、約1.7倍となっています。これは、女性は男性に比べて「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」の有病率が高い(男性の7.5%に対し女性は13.1%)という男女の疾病構造の違いが影響していると思われます。

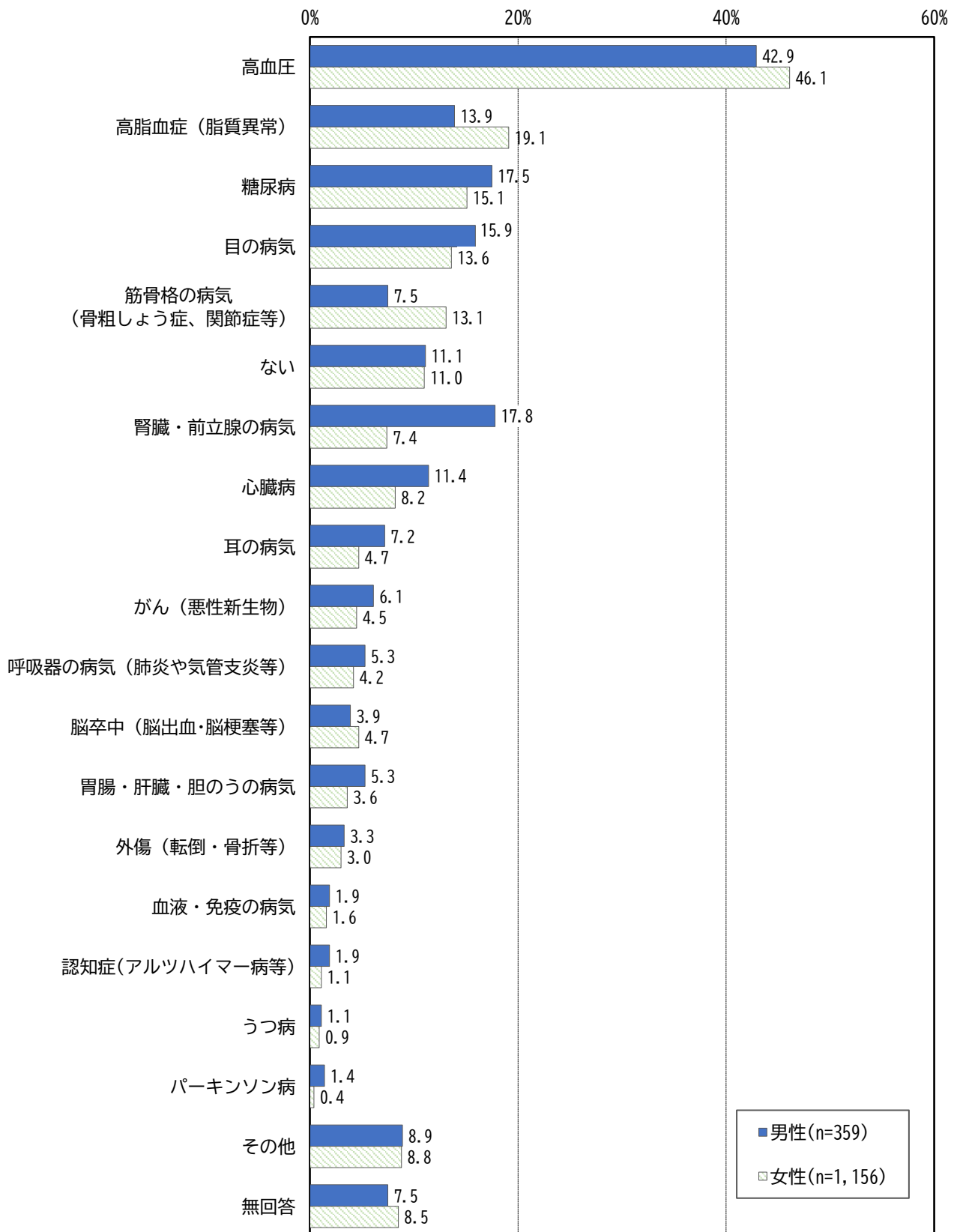
また、年齢階層別にみると、年齢階層が高くなるにつれてリスク者の割合が高くなるのがわかります。

家族構成別にみると、1人暮らしと息子・娘との2世帯のリスク者の割合が、夫婦2人暮らしに比べて高くなっています。

運動器機能リスク判定結果（男女別・年齢階層別・家族構成別）



現在治療中、または後遺症のある病気（男女別）



②転倒リスク

1) リスク判定方法

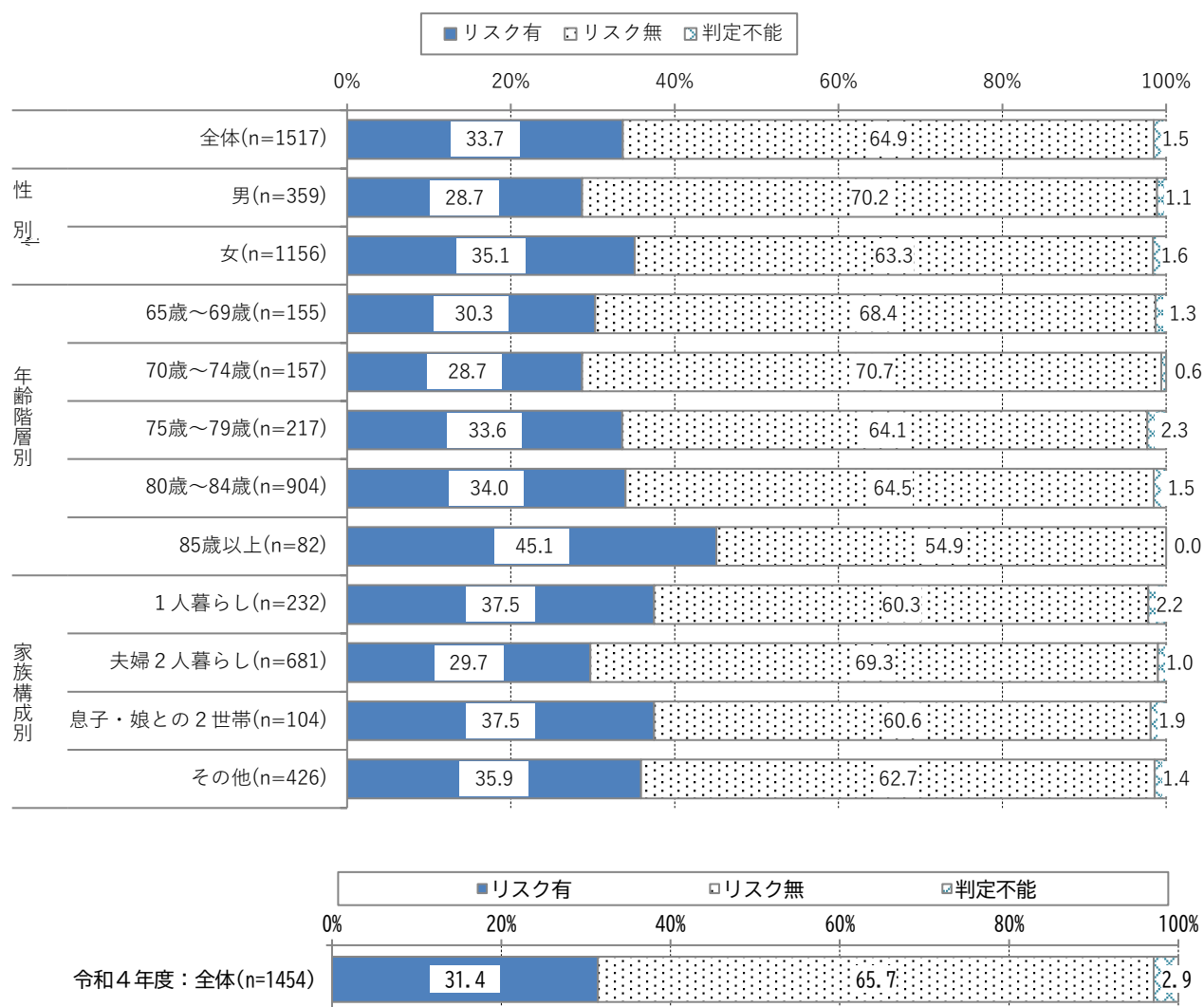
No.	設問内容	選択肢
問2 (4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない

国の判定基準によると、問2（4）で「1. 何度もある」「2. 1度ある」に該当する選択肢が回答された場合は、転倒リスクのある高齢者と判定されます。

男女別にリスク判定結果をみると、女性は男性に比べてリスク者の割合が6.4ポイント高くなっています。また、年齢階層別にみると、年齢階層が高くなるにつれてリスク者の割合が高くなるのがわかります。

家族構成別にみると、1人暮らしと息子・娘との2世帯のリスク者の割合が、夫婦2人暮らしに比べ高くなっています。

転倒リスク判定結果（男女別・年齢階層別・家族構成別）



③閉じこもり傾向

1) リスク判定方法

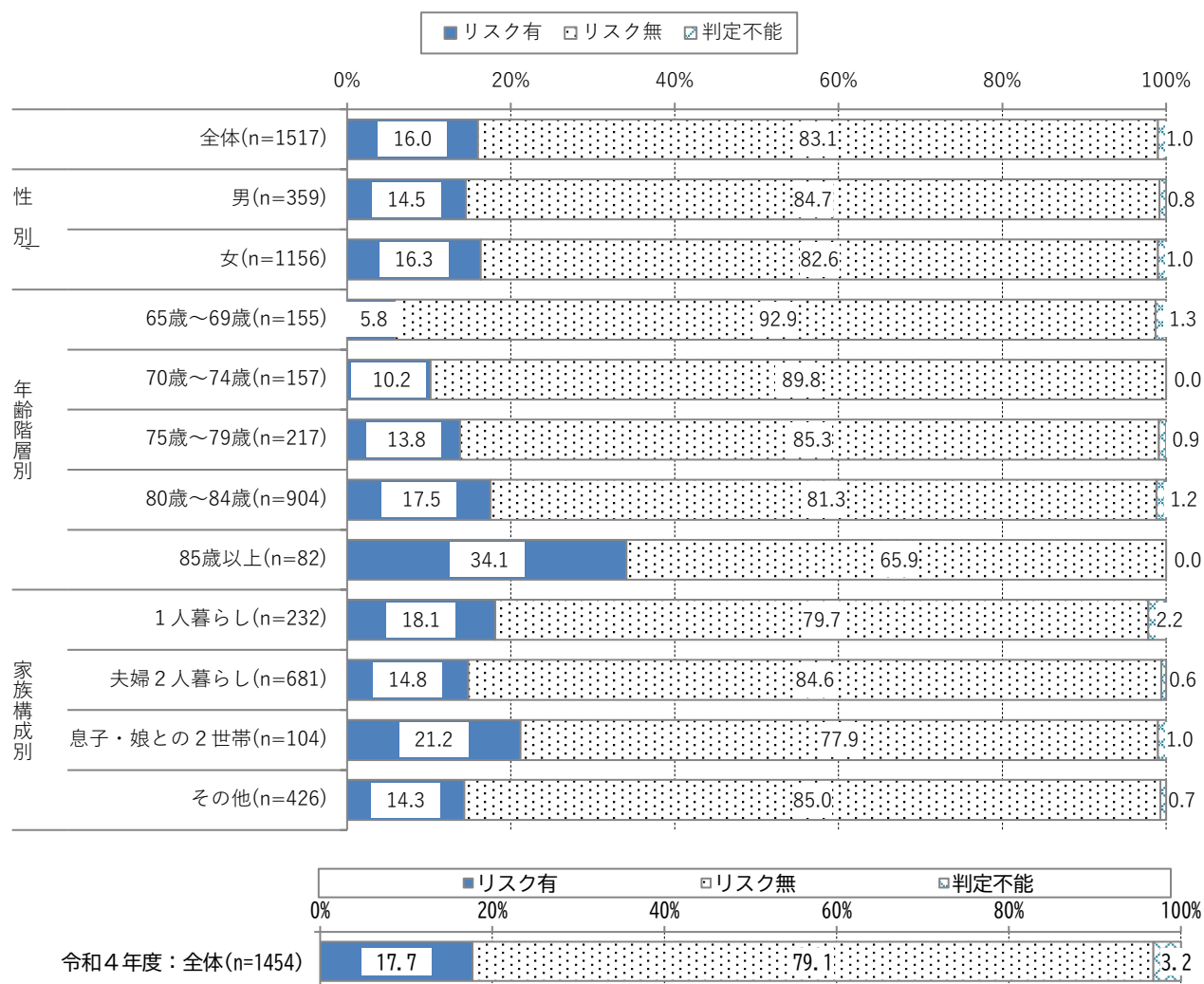
No.	設問内容	選択肢
問2 (6)	週に1回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない 2. 週1回 3. 週2～4回 4. 週5回以上

国の判定基準によれば、問2(6)で「1. ほとんど外出しない」「2. 週1回」に該当する選択肢が回答された場合は、閉じこもり傾向のある高齢者と判定されます。

男女別にリスク判定結果をみると、女性は男性に比べてリスク者の割合が1.8ポイント高くなっています。また、年齢階層別にみると、年齢階層が高くなるにつれてリスク者の割合が高くなることがわかります。

家族構成別にみると、1人暮らしと息子・娘との2世帯のリスク者の割合が、夫婦2人暮らしに比べて高くなっています。

閉じこもりリスク判定結果（男女別・年齢階層別・家族構成別）



(2) 食えることについて

①低栄養の傾向

1) リスク判定方法

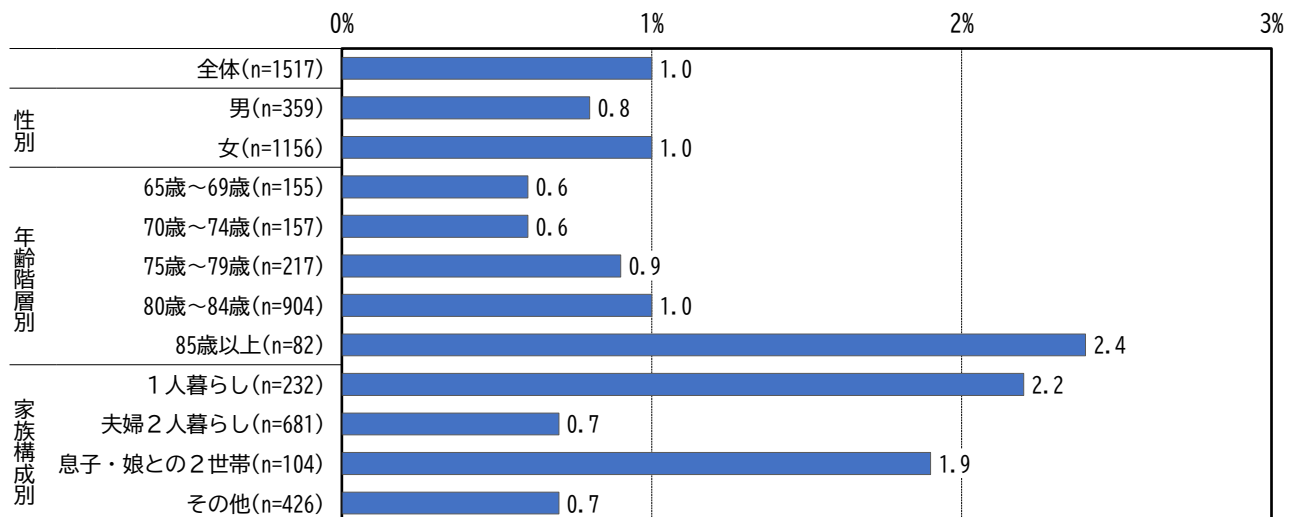
No.	設問内容	選択肢
問3 (1)	身長・体重	() cm () kg →BMI 18.5 以下
問3 (7)	6 か月間で2～3 kg 以上の体重減少がありましたか (オプション項目)	1. はい 2. いいえ

国の判定基準によれば、身長・体重から算出されるBMI（体重（kg）÷ {身長（m）×身長（m）}）が18.5 以下の場合、低栄養が疑われる高齢者になります。また、今回の調査においては、国が示す必須項目（身長・体重を問う設問）に加え、本町では、別途示されたオプション項目 {問3（7）} を追加して調査し、より正確に低栄養状態を把握することにしました。

男女別にリスク判定結果をみると、女性は男性に比べてリスク者の割合が0.2 ポイント高くなっています。また、年齢階層別にみると、年齢階層が高くなるにつれてリスク者の割合が高くなることがわかります。

家族構成別にみると、1人暮らしと息子・娘との2世帯のリスク者の割合が、夫婦2人暮らしに比べて高くなっています。

低栄養リスク者割合（男女別・年齢階層別・家族構成別）



②口腔機能の低下

1) リスク判定方法

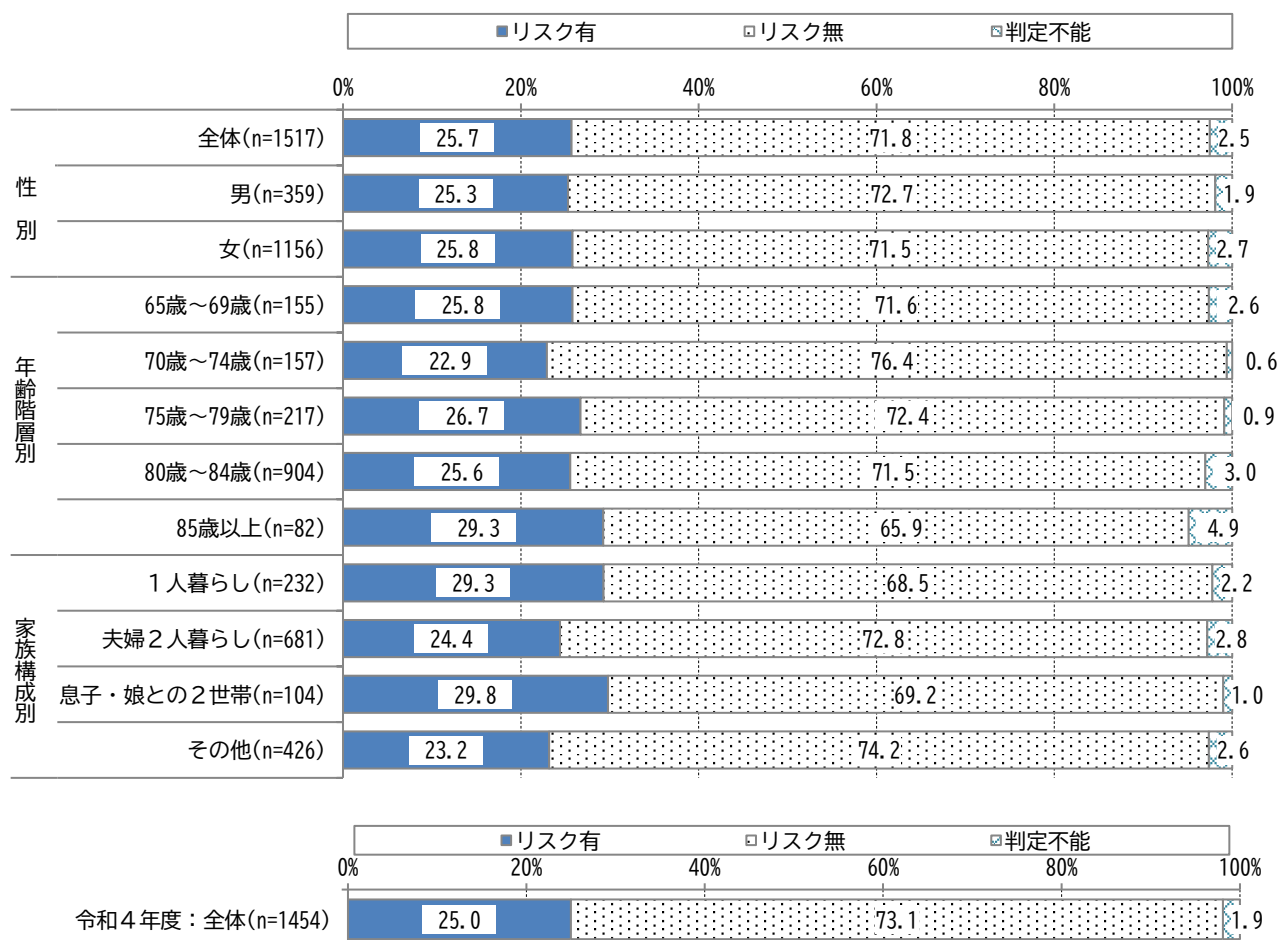
No.	設問内容	選択肢
問3 (2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい 2. いいえ
問3 (3)	お茶や汁物等でむせることがありますか（オプション項目）	1. はい 2. いいえ
問3 (4)	口の渇きが気になりますか（オプション項目）	1. はい 2. いいえ

国の判定基準によれば、上記の設問のうち、2問以上「1. はい」に該当した場合は、口腔機能が低下している高齢者と判定されます。

リスク判定結果をみると、男女で差はみられず、年齢階層別にみると、85歳以上でリスク者の割合が最も高くなっていることがわかります。

家族構成別にみると、1人暮らしと息子・娘との2世帯のリスク者の割合が、夫婦2人暮らしに比べて高くなっています。

口腔機能低下リスク判定結果（男女別・年齢階層別・家族構成別）



(3) 毎日の生活

①認知機能の低下

1) リスク判定方法

No.	設問内容	選択肢
問4 (1)	物忘れが多いと感じますか	1. はい 2. いいえ

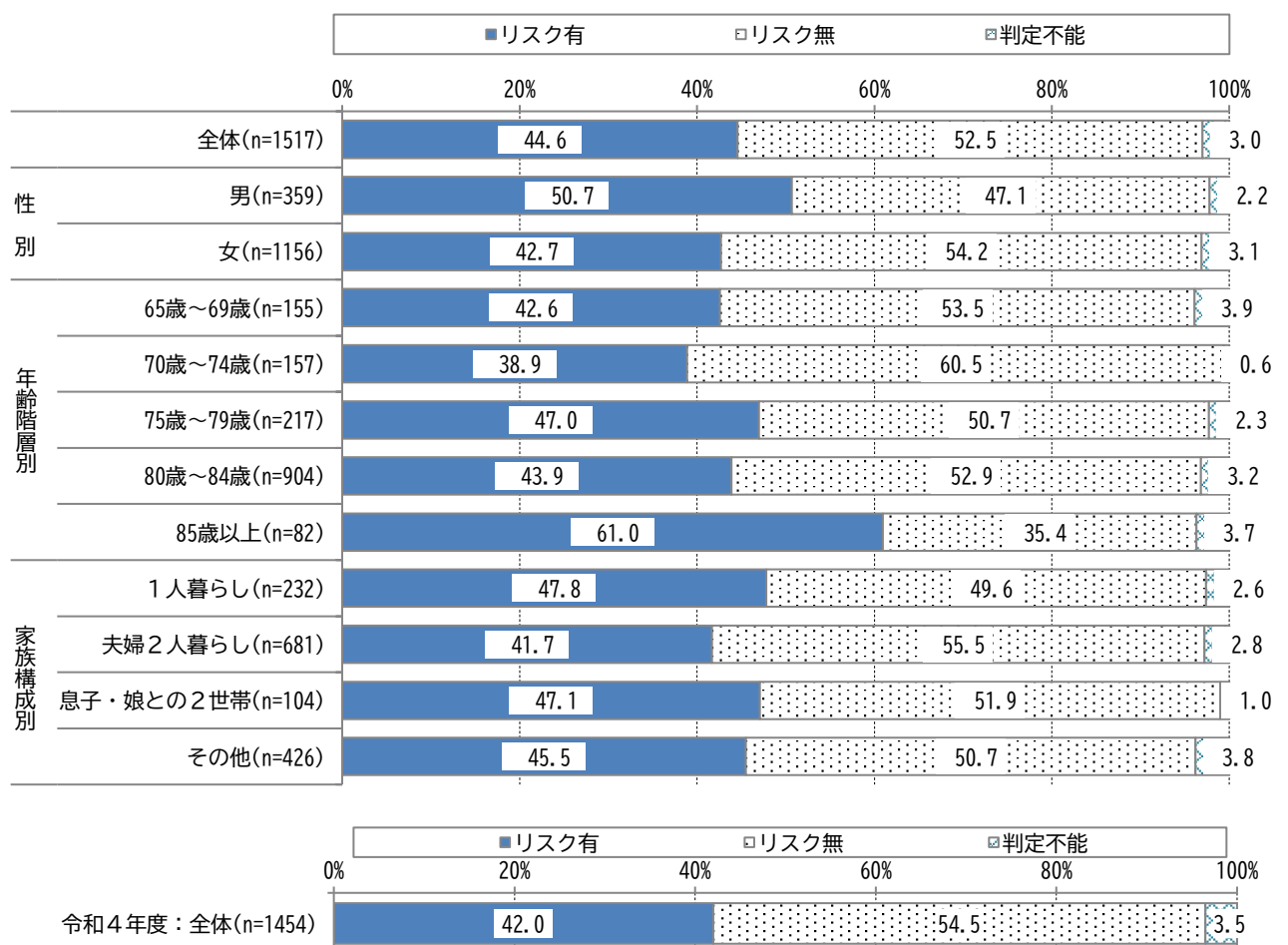
国の判定基準によれば、問4（1）で「1. はい」に該当する選択肢が回答された場合は、認知機能の低下がみられる高齢者と判定されます。物忘れが多いと感じるかどうかのみで判定されるため、認知機能の低下が見られるといっても必ずしも認知症の状態であるとはいえません。

リスク判定結果をみると、男性は女性に比べてリスク者の割合が 8.0 ポイント高くなっています。

年齢階層別にみると、80 歳以上でリスク者の割合が最も高くなっていることがわかります。

家族構成別にみると、1 人暮らしと息子・娘との2世帯のリスク者の割合が、夫婦2人暮らしに比べて高くなっています。

認知機能低下リスク判定結果（男女別・年齢階層別・家族構成別）

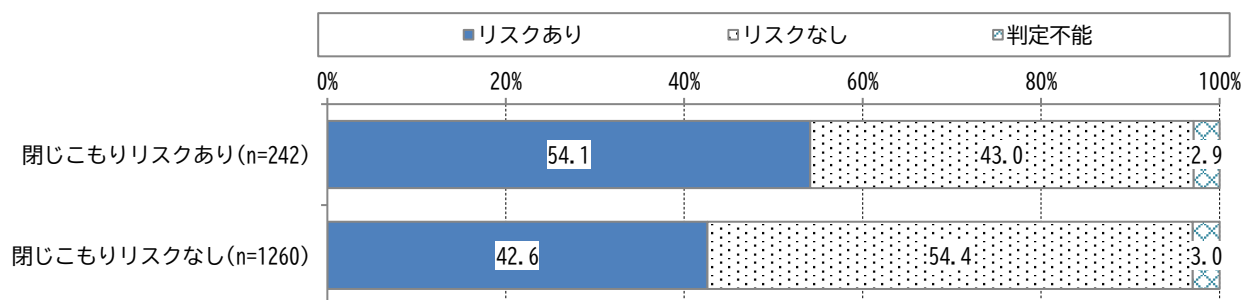


2) 認知機能の低下と閉じこもりリスクとの関係

閉じこもりのリスクの有無別に認知機能低下のリスク者割合を見ると、閉じこもりリスクのある人は、ない人に比べ認知機能低下のリスク者割合が高くなっています。

これらの結果から、外出の機会を増やすことで、認知機能低下のリスクを低減できる可能性があると考えられます。

認知機能低下リスク判定結果（閉じこもりリスクの有無別）

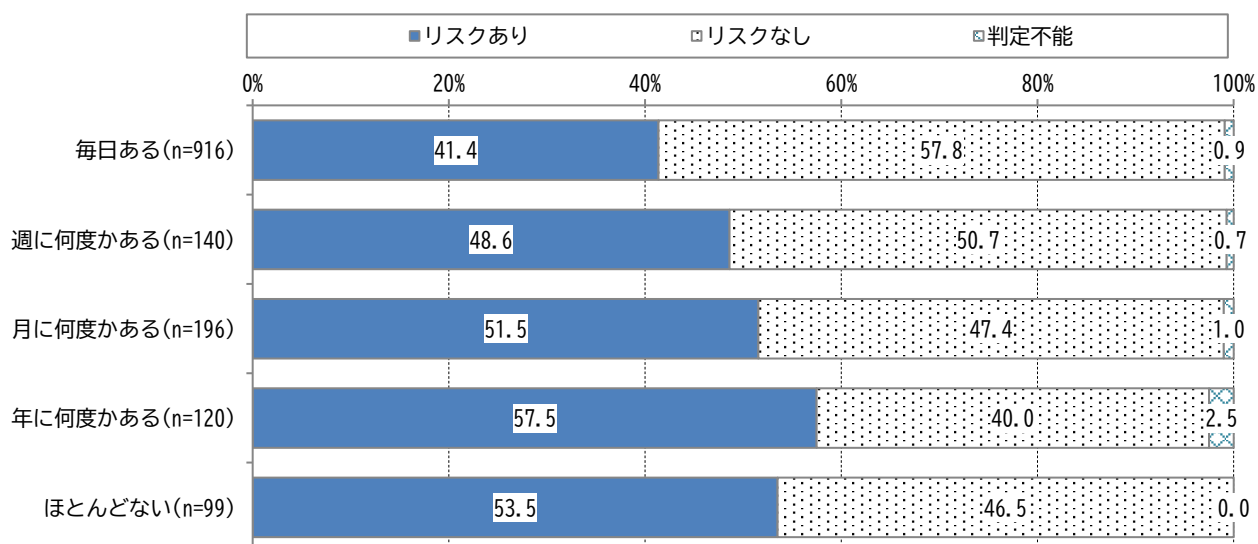


3) 認知機能の低下と食事の状況との関係

誰かと食事をする頻度別に判定結果をみると、「毎日ある」と回答した人は、その他の誰かと食事をする頻度に比べリスク者の割合が低くなっています。

1人暮らし等で、ふだん孤食状態にある人も、誰かと食事を共にする機会を一定の頻度持つことで認知機能低下リスクの低減効果をもたらすことが期待できます。

認知機能低下リスク判定結果（誰かと食事をする頻度別）



② I A D L の低下

1) リスク判定方法

No.	設問内容	選択肢
問4 (4)	バスや電車を使って1人で外出 していますか(自家用車でも可)	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
問4 (5)	自分で食品・日用品の買物をし ていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
問4 (6)	自分で食事の用意をしています か	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
問4 (7)	自分で請求書の支払いをしてい ますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
問4 (8)	自分で預貯金の出し入れをして いますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

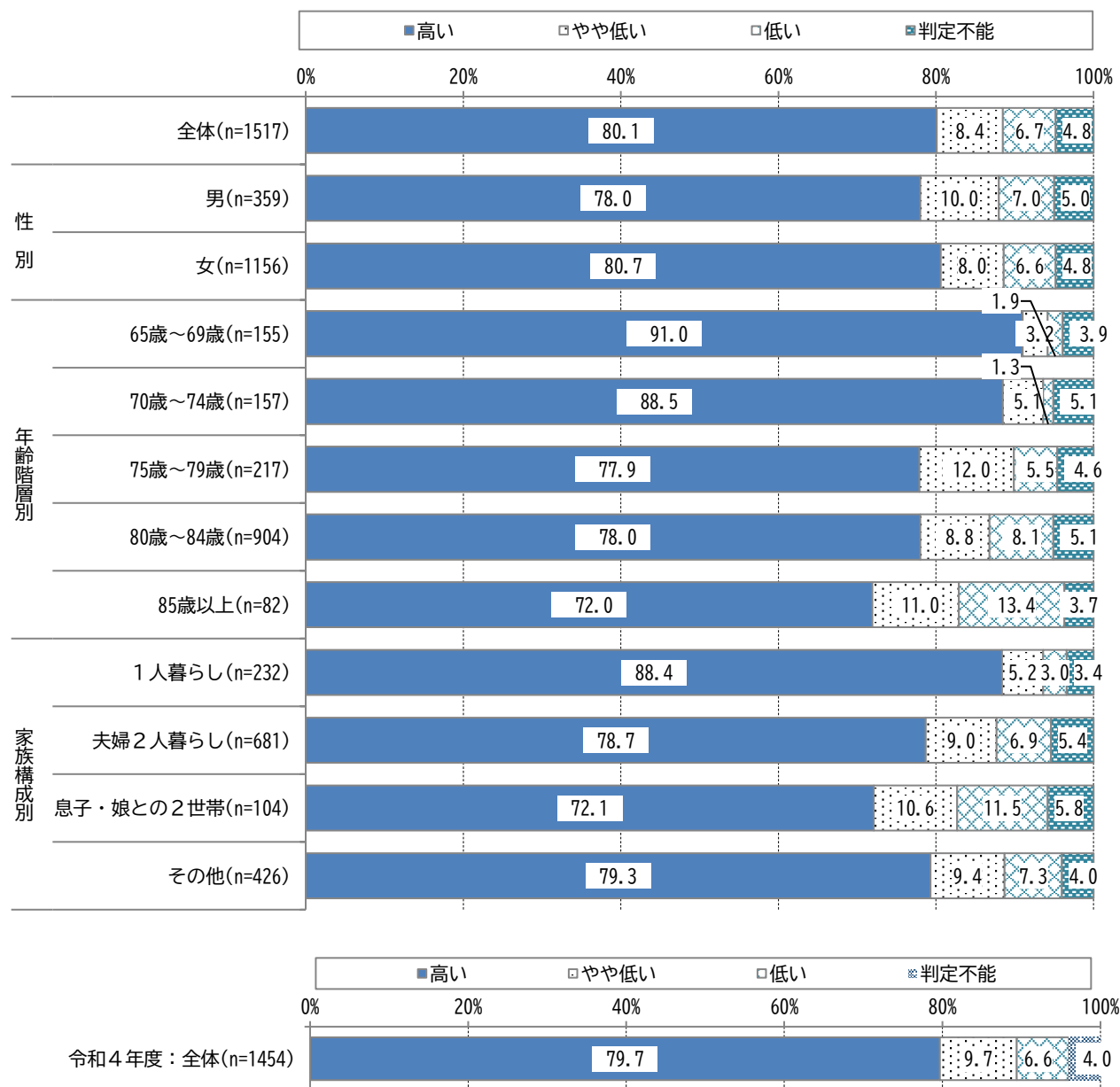
I A D L (Instrumental Activities of Daily Living) とは、手段的日常生活動作とも言われ、電話の使い方、買物、家事、移動、外出、服薬の管理、金銭の管理など、A D L (Activities of Daily Living: 日常生活動作) ではとらえられない高次の生活機能の水準を測定するもので、在宅生活の可能性を検討する場合は、A D L の評価だけでは不十分であり、I A D L が重要な指標になるとされています。

国の判定基準によれば、上記設問で、「1. できるし、している」「2. できるけどしていない」と回答した場合を1点として、5点満点でI A D L を評価します(5点を「1. 高い」、4点を「2. やや低い」、3点以下を「3. 低い」とします)。

男女別にリスク判定結果をみると、「やや低い」「低い」と判定された男性の割合は、女性に比べて2.4ポイント高くなっています。また、年齢階層別にみると、年齢階層が高くなるにつれて「やや低い」「低い」と判定された人の割合が高くなっており、85歳以上では約2割強になっています。

家族構成別にみると、「やや低い」「低い」と判定された割合は、1人暮らしが最も低くなっています。

I A D L 判定結果（男女別・年齢階層別・家族構成別）



(4) 健康

①うつ傾向

1) リスク判定方法

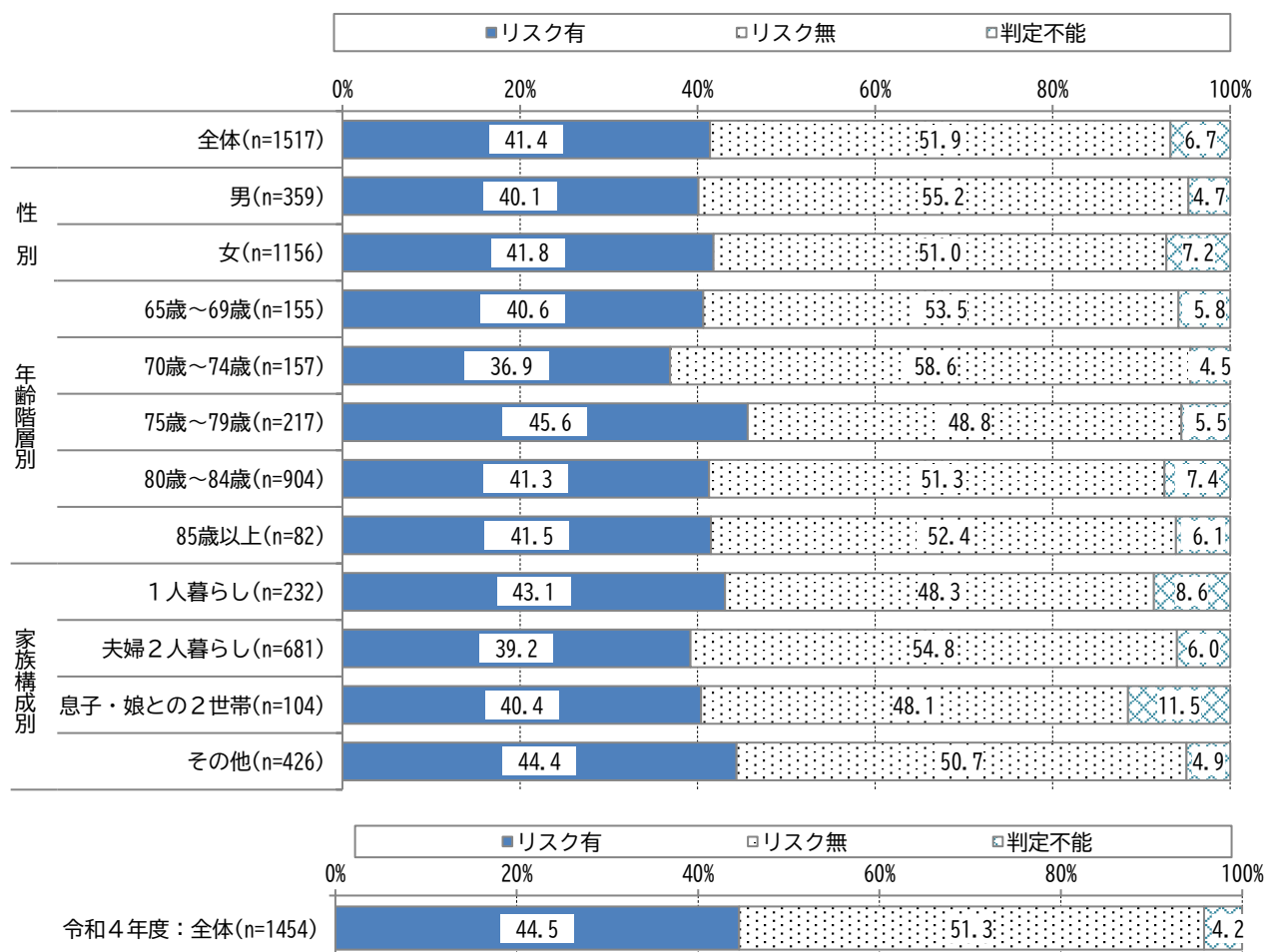
No.	設問内容	選択肢
問8 (3)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	1. はい 2. いいえ
問8 (4)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	1. はい 2. いいえ

国の判定基準によれば、問8(3)、問8(4)でいずれか1つでも「1. はい」に該当する選択肢が回答された場合は、うつ傾向の高齢者と判定されます。

男女別にリスク判定結果をみると、女性は男性に比べてリスク者の割合が1.7ポイント高くなっています。また、年齢階層別にみると、75歳～79歳がリスク者の割合が最も高くなっています。

家族構成別にみると、1人暮らしのリスク者の割合が、夫婦2人暮らし、息子・娘との2世帯に比べて高くなっています。

うつリスク判定結果（男女別・年齢階層別・家族構成別）



2. 稲美町独自設問

問6（2）あなたは、週に数時間程度、他の高齢者の生活支援（例：買い物代行、通院の付き添い、見守りなど）を手伝う、有償または無償の役割に関心がありますか

		有償 （報酬がある） なら関心がある	無償 （ボランティア） でも関心がある	内容によっては関心がある （詳しく知りたい）	関心はない	無回答
単位：％						
全体(n=1517)		4.2	5.1	16.7	63.7	10.3
性別	男(n=359)	6.1	4.2	15.3	65.7	8.6
	女(n=1156)	3.5	5.4	17.1	63.2	10.7
年齢階層別	65歳～69歳(n=155)	9.0	3.2	19.4	60.6	7.7
	70歳～74歳(n=157)	5.7	2.5	9.6	73.9	8.3
	75歳～79歳(n=217)	3.7	7.4	21.2	55.8	12.0
	80歳～84歳(n=904)	3.2	5.3	17.0	64.4	10.1
	85歳以上(n=82)	2.4	6.1	9.8	65.9	15.9
家族構成別	1人暮らし(n=232)	3.9	4.7	19.4	57.3	14.7
	夫婦2人暮らし(n=681)	5.3	6.3	16.6	62.3	9.5
	息子・娘との2世帯(n=104)	3.8	1.9	17.3	67.3	9.6
	その他(n=426)	3.1	4.5	15.5	69.7	7.3
状況別	要支援認定者(n=61)	0.0	3.3	11.5	70.5	14.8
	一般高齢者(n=1454)	4.3	5.2	16.9	63.5	10.0
			上位1位		上位2位	

男女別にみると、男性は「有償（報酬がある）なら関心がある」と回答した割合が女性に比べて高く、女性は「無償（ボランティア）でも関心がある」「内容によっては関心がある（詳しく知りたい）」の割合が男性に比べて高くなっています。

年齢階層別にみると、「内容によっては関心がある（詳しく知りたい）」と回答した人の割合は75歳～79歳で最も高くなっています。

家族構成別にみると、「内容によっては関心がある（詳しく知りたい）」と回答した人の割合は1人暮らしで最も高くなっています。

問7（9）災害や急病の時に助けを求められる人はいますか

		同居家族	別居の家族・親族	近隣住民	民生委員・児童委員	地域包括支援センター等の公的機関	いない・わからない	無回答
単位：％								
全体(n=1517)		68.5	62.7	29.3	4.5	4.7	4.7	2.6
性別	男(n=359)	71.6	57.7	28.1	6.1	3.9	5.3	3.1
	女(n=1156)	67.6	64.3	29.7	4.0	5.0	4.6	2.5
年齢階層別	65歳～69歳(n=155)	72.9	61.3	25.2	3.2	2.6	4.5	1.3
	70歳～74歳(n=157)	75.8	66.9	26.8	2.5	5.7	0.6	3.8
	75歳～79歳(n=217)	65.4	65.0	32.3	5.5	4.6	5.1	2.8
	80歳～84歳(n=904)	68.0	62.1	29.3	4.8	4.9	5.5	2.8
	85歳以上(n=82)	59.8	58.5	34.1	4.9	6.1	3.7	1.2
家族構成別	1人暮らし(n=232)	6.0	67.2	34.9	8.6	5.2	15.1	1.3
	夫婦2人暮らし(n=681)	72.8	68.9	29.7	4.0	5.4	4.0	2.9
	息子・娘との2世帯(n=104)	92.3	58.7	21.2	1.9	1.0	1.0	4.8
	その他(n=426)	89.0	54.0	28.2	4.0	4.5	1.2	2.1
状況認定別	要支援認定者(n=61)	47.5	68.9	24.6	6.6	13.1	6.6	0.0
	一般高齢者(n=1454)	69.4	62.4	29.5	4.4	4.4	4.7	2.8
			上位1位		上位2位			

男女別にみると、男女ともに「同居家族」と回答した割合が最も高くなっていますが、男性の方が女性に比べて高くなっています。一方、「別居の家族・親族」と回答した割合は女性の方が男性に比べて高くなっています。

年齢階層別にみると、「同居家族」と回答した人の割合は70歳～74歳で最も高く、85歳以上で最も低くなっています。

家族構成別にみると、「同居家族」と回答した人の割合は息子・娘との2世帯で最も高く、1人暮らしは「近隣住民」と回答した人の割合が他の家族構成に比べて高く、また「別居の家族・親族」への依存度も高い傾向になっています。

認定状況別にみると、「同居家族」と回答した割合は一般高齢者の方が高くなっていますが、「地域包括支援センター等の公的機関」と回答した割合は要支援認定者の方が高くなっています。

問8（8）あなたが今、一番気をつけたい・よくしたい身体や健康のことは何ですか

		転倒予防	認知機能の維持	筋力・体力の維持	口腔機能の維持	低栄養状態の改善	孤立の防止・交流機会の確保	特にない	無回答
単位：%									
全体(n=1517)		50.2	48.3	74.5	14.4	2.5	4.3	5.9	5.7
性別	男(n=359)	35.4	46.0	75.8	15.0	2.5	4.5	8.4	5.3
	女(n=1156)	54.8	49.0	74.1	14.3	2.5	4.2	5.1	5.8
年齢階層別	65歳～69歳(n=155)	31.0	40.6	77.4	26.5	3.2	1.9	9.0	6.5
	70歳～74歳(n=157)	47.1	47.8	79.6	19.7	0.0	0.6	4.5	3.8
	75歳～79歳(n=217)	48.8	49.8	77.4	12.4	5.1	7.4	5.5	4.1
	80歳～84歳(n=904)	53.2	49.4	73.5	12.6	2.0	4.5	5.6	6.1
	85歳以上(n=82)	62.2	46.3	63.4	7.3	4.9	4.9	6.1	7.3
家族構成別	1人暮らし(n=232)	55.2	48.3	74.6	13.4	5.6	9.1	3.4	6.5
	夫婦2人暮らし(n=681)	45.5	48.2	75.5	15.1	1.6	4.1	6.0	5.9
	息子・娘との2世帯(n=104)	55.8	53.8	62.5	13.5	2.9	1.9	4.8	11.5
	その他(n=426)	52.6	48.1	77.2	14.1	2.3	3.1	6.8	3.5
状況別 認定	要支援認定者(n=61)	72.1	45.9	73.8	9.8	3.3	8.2	4.9	1.6
	一般高齢者(n=1454)	49.2	48.3	74.6	14.6	2.5	4.1	5.9	5.8
			上位1位	上位2位					

男女別にみると、男女ともに「筋力・体力の維持」と回答した割合が最も高くなっています。「転倒予防」と回答した割合は、女性が男性に比べて大幅に高くなっています。

年齢階層別にみると、「転倒予防」と回答した人の割合は、年齢階層が高くなるにつれて高くなっています。

家族構成別にみると、いずれの層でも「筋力・体力の維持」が最も高くなっています。

認定状況別にみると、「転倒予防」と回答した人の割合は要支援認定者の方が高くなっています。

問9（3）あなたは、認知症についてどのようなイメージ・考えをお持ちですか

		認知症は、誰でもなる可能性がある	認知症の人にならないように対応したら	自分や家族が認知症になったら、おきたい	認知症は、治療やケアによって進行を遅らせたり、症状を軽くできる	認知症は、残り残った生活を送ることは、人らしくない	認知症が進行すると、自宅で暮らせなくなる	その他	無回答
単位：%									
全体(n=1517)		84.8	24.6	5.1	63.3	48.8	33.9	1.1	5.9
性別	男(n=359)	84.1	27.3	6.4	58.5	45.7	28.4	1.4	6.1
	女(n=1156)	84.9	23.7	4.7	64.9	49.8	35.6	1.0	5.8
年齢階層別	65歳～69歳(n=155)	87.1	20.0	1.9	60.0	47.1	31.6	1.9	5.8
	70歳～74歳(n=157)	91.1	26.8	7.0	72.0	50.3	32.5	0.6	3.2
	75歳～79歳(n=217)	81.6	27.6	5.1	62.2	48.8	31.8	0.9	5.5
	80歳～84歳(n=904)	84.6	24.9	5.3	63.5	49.4	35.1	1.2	5.8
	85歳以上(n=82)	78.0	17.1	4.9	54.9	42.7	32.9	0.0	13.4
家族構成別	1人暮らし(n=232)	80.2	21.6	2.6	60.3	42.7	41.8	1.3	7.8
	夫婦2人暮らし(n=681)	86.5	25.0	5.0	65.5	51.1	30.8	0.7	5.3
	息子・娘との2世帯(n=104)	83.7	24.0	3.8	57.7	53.8	33.7	0.0	6.7
	その他(n=426)	85.2	25.8	7.5	63.1	47.9	34.0	1.9	5.2
状況別	要支援認定者(n=61)	86.9	26.2	6.6	60.7	45.9	39.3	0.0	3.3
	一般高齢者(n=1454)	84.7	24.5	5.0	63.5	49.0	33.6	1.2	6.0
			上位1位		上位2位				

男女別にみると、男女ともに「認知症は、誰でもなる可能性がある病気である」と回答した割合が最も高くなっています。

年齢階層別にみると、「認知症は、誰でもなる可能性がある病気である」と回答した人の割合は70歳～74歳で最も高く、85歳以上で最も低くなっています。

家族構成別にみると、「認知症は、誰でもなる可能性がある病気である」と回答した人の割合は夫婦2人暮らしで最も高くなっています。1人暮らしは「認知症が進行すると、自宅で暮らせなくなる」と回答した人の割合が他の層より高くなっています。

認定状況別にみると、「認知症が進行すると、自宅で暮らせなくなる」と回答した人の割合は要支援認定者の方が高くなっています。

問9（４）この１年間で、ご自身またはご家族の記憶力や判断力（例：約束を忘れる、物の置き忘れが増えるなど）について、「心配だ」と感じたことはありますか

		ある	ない	無回答
単位：％				
全体(n=1517)		42.0	52.6	5.4
性別	男(n=359)	42.3	51.8	5.8
	女(n=1156)	41.9	52.9	5.3
年齢階層別	65歳～69歳(n=155)	36.8	56.1	7.1
	70歳～74歳(n=157)	38.2	59.2	2.5
	75歳～79歳(n=217)	40.1	55.3	4.6
	80歳～84歳(n=904)	43.3	51.3	5.4
	85歳以上(n=82)	50.0	40.2	9.8
家族構成別	1人暮らし(n=232)	39.7	56.0	4.3
	夫婦2人暮らし(n=681)	41.0	53.7	5.3
	息子・娘との2世帯(n=104)	43.3	50.0	6.7
	その他(n=426)	45.8	48.8	5.4
状況認定別	要支援認定者(n=61)	57.4	37.7	4.9
	一般高齢者(n=1454)	41.3	53.2	5.4
			上位1位	

男女別にみると、「ある」と回答した割合に男女で大きな差はみられません。

年齢階層別にみると、「ある」と回答した人の割合は年齢階層が高くなるにつれて高くなり、85歳以上で最も高くなっています。

家族構成別にみても大きな差はみられません。

認定状況別でみると、「ある」と回答した人の割合は要支援認定者の方が大きく上回っています。

問9（5）もし、あなたの家族が認知症になったら、そのことを近所の人に知ってもらおうと思いますか

		か 知 つ て も ら っ て 、 見 守 り や 声 か け な ど 協 力 を お 願 い し た い	て 知 つ て お い て ほ し い が 、 あ え	必 要 も な い の こ と を 知 つ て お い て も え ら う そ	い で き れ ば あ ま り 知 ら れ た く な	わ か ら な い	そ の 他	無 回 答
単位：％								
全体(n=1517)		43.4	10.3	26.7	3.0	8.4	0.8	7.4
性別	男(n=359)	40.4	10.3	28.7	3.9	7.8	1.4	7.5
	女(n=1156)	44.3	10.4	26.0	2.7	8.6	0.6	7.4
年齢階層別	65歳～69歳(n=155)	44.5	7.1	26.5	3.9	9.7	1.3	7.1
	70歳～74歳(n=157)	41.4	13.4	29.9	2.5	7.0	1.9	3.8
	75歳～79歳(n=217)	38.7	8.3	26.3	6.0	13.4	0.0	7.4
	80歳～84歳(n=904)	45.2	10.8	26.1	2.3	7.3	0.7	7.5
	85歳以上(n=82)	36.6	11.0	28.0	1.2	7.3	1.2	14.6
家族構成別	1人暮らし(n=232)	46.1	9.5	16.8	1.3	11.6	1.7	12.9
	夫婦2人暮らし(n=681)	43.6	10.3	28.5	3.7	7.6	0.3	6.0
	息子・娘との2世帯(n=104)	37.5	13.5	27.9	2.9	10.6	1.0	6.7
	その他(n=426)	43.2	10.3	29.6	2.8	6.8	0.9	6.3
状況別	要支援認定者(n=61)	47.5	6.6	27.9	1.6	9.8	1.6	4.9
	一般高齢者(n=1454)	43.2	10.5	26.6	3.0	8.3	0.8	7.6
			上位1位		上位2位			

男女別にみると、男女ともに「知ってもらって、見守りや声かけなど協力をお願いしたい」と回答した割合が最も高くなっています。

年齢階層別にみると、「知ってもらって、見守りや声かけなど協力をお願いしたい」と回答した人の割合は80歳～84歳で高く、85歳以上で低くなっています。

家族構成別にみると、「知ってもらって、見守りや声かけなど協力をお願いしたい」と回答した人の割合は1人暮らしで最も高くなっています。

認定状況別でみると、「知ってもらって、見守りや声かけなど協力をお願いしたい」と回答した人の割合は要支援認定者の方が高くなっています。

問9（6）あなたやあなたの家族が認知症になっても自宅で暮らしていくためには、どのようなことが必要になると思いますか

		適切なサービスの利用	認知症への理解と対応	定期的な見守りと声かけ	買物や外出の付き添い	簡単な掃除やゴミ出しなどの手伝い	ひとり暮らしのためのサポート	特に必要ない	その他	無回答
単位：％										
全体(n=1517)		75.6	58.7	46.4	36.0	27.0	22.2	1.5	1.5	6.8
性別	男(n=359)	71.6	60.4	45.7	33.7	25.6	15.9	1.7	2.2	6.7
	女(n=1156)	76.8	58.2	46.6	36.7	27.4	24.1	1.5	1.2	6.8
年齢階層別	65歳～69歳(n=155)	80.0	65.2	46.5	32.3	25.2	19.4	1.3	0.6	5.8
	70歳～74歳(n=157)	80.3	68.2	46.5	41.4	31.2	17.2	0.6	0.0	4.5
	75歳～79歳(n=217)	71.0	55.8	48.4	36.9	28.1	20.3	1.8	3.2	6.0
	80歳～84歳(n=904)	75.9	58.0	46.7	36.3	26.5	23.8	1.8	1.5	7.0
	85歳以上(n=82)	67.1	45.1	37.8	26.8	24.4	24.4	0.0	0.0	13.4
家族構成別	1人暮らし(n=232)	66.4	44.0	46.6	37.1	31.9	52.6	2.2	1.7	9.1
	夫婦2人暮らし(n=681)	79.0	59.3	48.2	36.7	28.5	18.9	1.2	0.9	6.0
	息子・娘との2世帯(n=104)	76.9	60.6	49.0	31.7	20.2	12.5	1.0	1.0	7.7
	その他(n=426)	75.8	67.6	44.4	34.0	23.7	14.8	1.9	2.3	5.9
状況別	要支援認定者(n=61)	82.0	47.5	45.9	32.8	31.1	29.5	0.0	4.9	6.6
	一般高齢者(n=1454)	75.3	59.2	46.4	36.1	26.8	21.9	1.6	1.3	6.8
			上位1位		上位2位					

男女別にみると、男女ともに「適切なサービスの利用」と回答した割合が最も高くなっています。「簡単な掃除やゴミ出しなどの手伝い」や「ひとり暮らしのためのサポート」と回答した割合は女性の方が男性に比べて高くなっています。

年齢階層別にみると、「適切なサービスの利用」と回答した人の割合は70歳～74歳で最も高く、85歳以上で最も低くなっています。

家族構成別にみると、「適切なサービスの利用」は夫婦2人暮らしで最も高くなっています。

認定状況別でみると、「適切なサービスの利用」と回答した人の割合は要支援認定者の方が高くなっています。一方、「認知症への理解と対応」は一般高齢者の方が高くなっています。

問 10（１）今後、高齢者が在宅で暮らしやすいまちをつくるため町はどのようなことに重点的に取り組むべきとお考えですか

		高齢者が地域で活躍できる機会をつつくる	地域のたすけあい活動や見守り活動を啓発する	健康づくりや介護予防についての講座を充実させる	わかりやすく利用しやすい高齢者相談窓口を充実させる	在宅介護サービスを充実させる	在宅介護サービスや高齢者福祉施設の情報提供を充実させる	公共施設のエレベーター設置やまちの段差解消をおこなう	その他	わからない	無回答
単位：％											
全体(n=1517)		23.7	34.6	16.0	52.7	50.4	40.4	11.9	2.0	7.3	8.4
性別	男(n=359)	25.1	33.4	18.1	49.0	46.2	40.1	12.0	2.5	10.3	6.7
	女(n=1156)	23.4	34.9	15.4	53.9	51.7	40.5	11.9	1.8	6.3	8.9
年齢階層別	65歳～69歳(n=155)	25.8	37.4	15.5	57.4	51.0	48.4	14.2	1.3	9.0	3.2
	70歳～74歳(n=157)	22.3	33.8	22.9	56.1	52.9	40.8	17.2	0.0	9.6	2.5
	75歳～79歳(n=217)	24.4	32.3	15.7	48.4	41.9	38.2	12.4	2.8	6.9	11.1
	80歳～84歳(n=904)	23.6	34.8	15.5	53.2	51.7	40.0	10.8	2.4	6.9	9.0
	85歳以上(n=82)	23.2	32.9	11.0	43.9	53.7	34.1	8.5	0.0	4.9	15.9
家族構成別	1人暮らし(n=232)	21.1	34.1	15.1	47.8	36.6	36.2	10.8	2.6	12.1	11.6
	夫婦2人暮らし(n=681)	23.9	35.4	15.9	54.8	53.7	41.4	12.9	2.2	5.7	7.8
	息子・娘との2世帯(n=104)	21.2	35.6	14.4	51.0	57.7	42.3	7.7	1.0	4.8	10.6
	その他(n=426)	24.9	34.3	17.4	53.5	51.6	42.5	12.4	1.9	7.7	6.1
状況別	要支援認定者(n=61)	19.7	32.8	9.8	49.2	52.5	41.0	14.8	4.9	6.6	14.8
	一般高齢者(n=1454)	23.9	34.6	16.3	52.9	50.3	40.4	11.8	1.9	7.3	8.1
			上位1位		上位2位						

男女別にみると、男女ともに「わかりやすく利用しやすい高齢者相談窓口を充実させる」と回答した割合が最も高く、次いで「在宅介護サービスを充実させる」が高くなっています。

年齢階層別にみると、「わかりやすく利用しやすい高齢者相談窓口を充実させる」と回答した人の割合は65歳～69歳で最も高く、85歳以上で最も低くなっています。85歳以上では「在宅介護サービスを充実させる」が最も高くなっています。

家族構成別にみると、「わかりやすく利用しやすい高齢者相談窓口を充実させる」と回答した人の割合は夫婦2人暮らしで最も高くなっています。息子・娘との2世帯では「在宅介護サービスを充実させる」が最も高くなっています。

認定状況別でみると、要支援認定者は「在宅介護サービスを充実させる」が最も高くなっています。

問 10（２）あなたは医療や介護が必要になった場合はどのような生活を希望しますか

		しど家族の介護や在宅医療・介護サービスなどを使いたい	どホームに住民サービス（高齢者向けに整備された住宅）	設）特別養護老人ホーム（常に入居を希望する施設）	その他	無回答
単位：％						
全体(n=1517)		54.3	15.4	18.9	3.0	8.4
性別	男(n=359)	58.5	13.4	17.0	3.3	7.8
	女(n=1156)	52.9	16.0	19.5	2.9	8.7
年齢階層別	65歳～69歳(n=155)	57.4	20.0	15.5	4.5	2.6
	70歳～74歳(n=157)	62.4	17.8	14.6	1.3	3.8
	75歳～79歳(n=217)	48.8	15.7	18.4	4.1	12.9
	80歳～84歳(n=904)	54.8	13.5	20.1	3.0	8.6
	85歳以上(n=82)	41.5	22.0	20.7	1.2	14.6
家族構成別	1人暮らし(n=232)	41.8	22.4	20.7	3.9	11.2
	夫婦2人暮らし(n=681)	55.7	15.4	18.6	2.6	7.6
	息子・娘との2世帯(n=104)	59.6	15.4	15.4	0.0	9.6
	その他(n=426)	57.7	11.5	20.4	4.0	6.3
状況別	要支援認定者(n=61)	57.4	18.0	19.7	0.0	4.9
	一般高齢者(n=1454)	54.1	15.3	18.8	3.2	8.6
			上位1位			

男女別にみると、男女ともに「家族の介護や在宅医療・介護サービスなどを使いながら、自宅や親族の家で暮らし続けたい」と回答した割合が最も高くなっています。

年齢階層別にみると、「自宅や親族の家で暮らし続けたい」と回答した人の割合は 70 歳～74 歳で最も高くなっています。

家族構成別にみると、「自宅や親族の家で暮らし続けたい」と回答した人の割合は息子・娘との2世帯で最も高く、1人暮らしは「高齢者向けに整備された住宅」や「特別養護老人ホームなどの介護施設」と回答した人の割合が他の層より高くなっています。

認定状況別でみると、「自宅や親族の家で暮らし続けたい」と回答した人の割合は要支援認定者の方が高くなっています。

問 10（3）将来、治る見込みがなく終末期が迫っていると告げられた場合、どこで暮らしたいと思いますか

		自宅や親族の家	高齢者向けに整備された住宅	特別養護老人ホームなどの介護施設	病院などの医療施設	その他	無回答
単位：％							
全体(n=1517)		39.4	7.8	15.4	26.3	3.2	7.9
性別	男(n=359)	40.1	7.5	13.6	27.3	3.9	7.5
	女(n=1156)	39.1	7.9	16.0	26.0	3.0	8.0
年齢階層別	65歳～69歳(n=155)	37.4	11.6	14.8	29.0	4.5	2.6
	70歳～74歳(n=157)	43.9	5.7	15.3	24.2	5.7	5.1
	75歳～79歳(n=217)	40.1	8.8	9.7	27.6	3.2	10.6
	80歳～84歳(n=904)	39.6	6.7	16.9	25.9	2.7	8.2
	85歳以上(n=82)	29.3	13.4	15.9	26.8	2.4	12.2
家族構成別	1人暮らし(n=232)	27.2	8.6	15.1	35.8	3.0	10.3
	夫婦2人暮らし(n=681)	43.2	7.9	15.6	23.1	3.1	7.2
	息子・娘との2世帯(n=104)	47.1	6.7	15.4	17.3	3.8	9.6
	その他(n=426)	37.3	6.3	16.4	30.5	3.5	5.9
状況認定別	要支援認定者(n=61)	34.4	9.8	13.1	31.1	0.0	11.5
	一般高齢者(n=1454)	39.5	7.7	15.5	26.1	3.4	7.7
			上位1位		上位2位		

男女別にみると、男女ともに「自宅や親族の家」と回答した割合が最も高く、次いで「病院などの医療施設」が高くなっています。

年齢階層別にみると、「自宅や親族の家」と回答した人の割合は 70 歳～74 歳で最も高く、85 歳以上で最も低くなっています。

家族構成別にみると、「自宅や親族の家」と回答した人の割合は息子・娘との2世帯で最も高く、1人暮らしは「病院などの医療施設」が最も高くなっています。

認定状況別でみると、「自宅や親族の家」と回答した人の割合は一般高齢者の方が高くなっています。

問 10（４）ご自身の終末期の希望について、家族に話したり伝えたりしたことがありますか

単位：％		ある	ない	わからない	無回答
全体(n=1517)		28.6	54.2	8.8	8.4
性別	男(n=359)	23.4	57.4	10.0	9.2
	女(n=1156)	30.1	53.3	8.4	8.2
年齢階層別	65歳～69歳(n=155)	23.2	63.9	9.7	3.2
	70歳～74歳(n=157)	29.9	54.8	9.6	5.7
	75歳～79歳(n=217)	30.4	49.8	9.7	10.1
	80歳～84歳(n=904)	27.7	55.2	8.4	8.7
	85歳以上(n=82)	40.2	36.6	7.3	15.9
家族構成別	1人暮らし(n=232)	30.2	50.0	10.3	9.5
	夫婦2人暮らし(n=681)	28.0	55.8	8.2	7.9
	息子・娘との2世帯(n=104)	23.1	51.9	13.5	11.5
	その他(n=426)	29.8	54.9	8.7	6.6
状況認定別	要支援認定者(n=61)	39.3	41.0	9.8	9.8
	一般高齢者(n=1454)	28.1	54.8	8.7	8.4
			上位1位		

男女別にみると、「ある」と回答した割合は女性の方が男性より高くなっています。
 年齢階層別にみると、「ある」と回答した人の割合は85歳以上で最も高くなっています。
 家族構成別にみると、「ある」と回答した人の割合は1人暮らしで最も高くなっています。
 認定状況別でみると、「ある」と回答した人の割合は要支援認定者の方が高くなっています。

問 10 (5) 「9月の敬老の日において、75 歳以上の人を対象に、敬愛の意を表し、長寿をお祝いすることを目的に、令和元年度まで敬老会を開催してきましたが、令和2年度から敬老お祝い品（商品券等）の配付に変更しています。第 10 期（令和9～11 年度）の敬老お祝い事業として、どのような企画を希望しますか

		敬老会（コスモホールでの余興等）の開催	自治会等が開催する敬老イベントの助成	敬老お祝い品（稲美町共通商品券）の配付	敬老お祝い品（茶菓子等）の配付	年齢を限定（5 歳刻みなど）の高価なお祝い品（カタログギフトなど）を配付	敬老お祝い事業を廃止し、他の高齢者福祉事業に予算を充てる	その他	無回答
単位：％									
全体(n=1517)		3.2	1.7	56.4	4.5	2.0	20.2	1.6	10.5
性別	男(n=359)	5.3	1.1	53.2	5.0	3.1	20.3	1.9	10.0
	女(n=1156)	2.5	1.9	57.4	4.3	1.6	20.2	1.5	10.6
年齢階層別	65歳～69歳(n=155)	1.3	0.6	56.8	2.6	3.2	23.2	4.5	7.7
	70歳～74歳(n=157)	2.5	0.0	61.8	6.4	2.5	22.3	0.0	4.5
	75歳～79歳(n=217)	6.0	1.8	55.3	3.2	2.8	15.2	1.4	14.3
	80歳～84歳(n=904)	2.9	1.9	56.7	4.3	1.5	20.7	1.5	10.4
	85歳以上(n=82)	3.7	4.9	43.9	9.8	1.2	19.5	0.0	17.1
家族構成別	1 人暮らし(n=232)	3.0	1.7	50.4	6.5	2.2	19.4	1.7	15.1
	夫婦 2 人暮らし(n=681)	2.6	1.6	56.4	4.1	2.3	21.1	1.3	10.4
	息子・娘との 2 世帯(n=104)	4.8	1.0	63.5	3.8	2.9	14.4	0.0	9.6
	その他(n=426)	3.3	1.6	58.0	4.0	0.7	22.3	2.3	7.7
状況認定	要支援認定者(n=61)	1.6	4.9	54.1	11.5	0.0	13.1	0.0	14.8
	一般高齢者(n=1454)	3.2	1.6	56.5	4.2	2.1	20.6	1.7	10.2
			上位1位		上位2位				

男女別にみると、男女ともに「敬老お祝い品（稲美町共通商品券）の配付」と回答した割合が最も高く、次いで「敬老お祝い事業を廃止し、他の高齢者福祉事業に予算を充てる」が高くなっています。

年齢階層別にみると、いずれの年代でも「敬老お祝い品（稲美町共通商品券）の配付」が最も高くなっていますが、85 歳以上では他の年代に比べて割合が低くなっています。

家族構成別にみると、「敬老お祝い品（稲美町共通商品券）の配付」と回答した人の割合は息子・娘との 2 世帯で最も高くなっています。

認定状況別でみると、「敬老お祝い品（稲美町共通商品券）の配付」はいずれも半数を超えています。が、「敬老お祝い事業を廃止し、他の高齢者福祉事業に予算を充てる」と回答した人の割合は一般高齢者の方が高くなっています。

問 10 (6) 高齢者福祉事業（タクシー・バス券、はり・きゅう券など）で要望がありましたら、ご記入ください

記述内容	件数
【1. タクシー・バス券の利用条件・枚数・金額・対象者に関する要望】	
枚数や金額を増やしてほしい、充実させてほしい 「タクシー券はもう少し多く使えるように、はり・きゅう券は月に何枚も使えたら良い」「満足できる枚数を配布してほしい」「運賃改正に伴い増冊をお願いしたい」「タクシー・バス等をもっと増加・充実させてほしい」といった要望が多く寄せられています。	17
1回の利用制限（枚数・金額）の緩和・撤廃 「1回に4枚ぐらい使えないと現金を払うことが多い」「追加料金なくチケット（1500円分等）で全額まかなえるようにしてほしい」「限度を無制限にし自由に活用しやすくしてほしい」「1回の利用券を利用分だけ払っていただければいいのに」など、一度に利用できる枚数や金額の制限をなくしてほしいという強い要望があります。	19
対象年齢や対象者の拡大 「70歳以上も対象にしてほしい」「年齢を下げてほしい」「75歳にならなくても介護認定を受けている者には支給してほしい」といった、対象範囲の拡大を求める声があります。	6
条件の撤廃・全員一律支給 「収入の多い少ないに関係なく、高齢者全員に平等に配布すべき」「課税・非課税世帯とわけずに全員に支給すべき」「車があれば出せない等の条件をなくしてほしい」「同居家族がいる人にも支給してほしい」との意見があります。	5
町外の病院等への利用範囲拡大 「町中だけでなく他市町の大病院へ移動できる事業拡大をお願いしたい」「町外の医療機関（県立医療センター等）への通院のためタクシー券が足りない」といった利用範囲の拡大希望があります。	3
制度の柔軟化 「タクシー券とバス券の交付冊数を選べるようにしてほしい」「町中心部への距離に差があるため交付枚数を考えてほしい」「本人の希望を聞いてタクシー券かバス補助かを決めてほしい」「税金を払っていない人が対象になることへの不満がある」といった意見が挙げられています。	4
【2. タクシー・バス・乗合タクシーの利便性・手配・運行に関する要望】	
タクシーの配車手配・台数確保 「予約が取れない、呼んでもすぐに来てくれないとよく耳にする」「台数確保を願いたい」「利用タクシー会社が少ない」など、必要な時にタクシーが手配できないことへの不満や改善要望が多く見られます。	11
バスの運行便数・ルートへの拡充 「バスの回数が少なく不便」「昼間の回数が少なすぎて使いたい時間に全くない」「役場・医療センター・駅・スーパー等を回る巡回バスを希望する」「明石・東加古川方面へのバスを運行してほしい」といった声があります。	8
バス停・公共交通機関へのアクセス改善 「バス停が遠くなかなか利用できない」「乗り換えの待ち時間が1時間など長すぎて不便」など、既存の交通機関へのアクセスの悪さを指摘する意見があります。	5
乗合タクシーの利便性向上・その他配車 「マインドタクシーの台数を増やし予約なしで対応してほしい」「あいのりタクシーの申込をLINEで可能にしてほしい」「福祉タクシーを普通のタクシーのように利用したい」「いつでもどこでも連れて行ってくれる安価な車の運用ができないか」といった要望があります。	5
【3. はり・きゅう券、マッサージ券等に関する要望】	
マッサージ等への適用拡大 「はり・きゅうに限定せず、マッサージや整体など高齢者が喜ぶ身体ケアにも選択肢を増やしてほしい」「タイマッサージのような券があればよい」との意見があります。	5
支給枚数や使い勝手の向上 「つり銭不要で使いたい」「利用回数を倍にしてほしい」「週3日通うとすぐ無くなるので定期的なものしてほしい」「治るまで10枚ずっと使えるようにしてほしい」といった要望があります。	4
券の選択制 「はりが苦手・経験がないので個人の負担にしてもよいと思う」「タクシー券を減らして、はり券に替えてもらうなど希望制にしてほしい」との声があります。	3

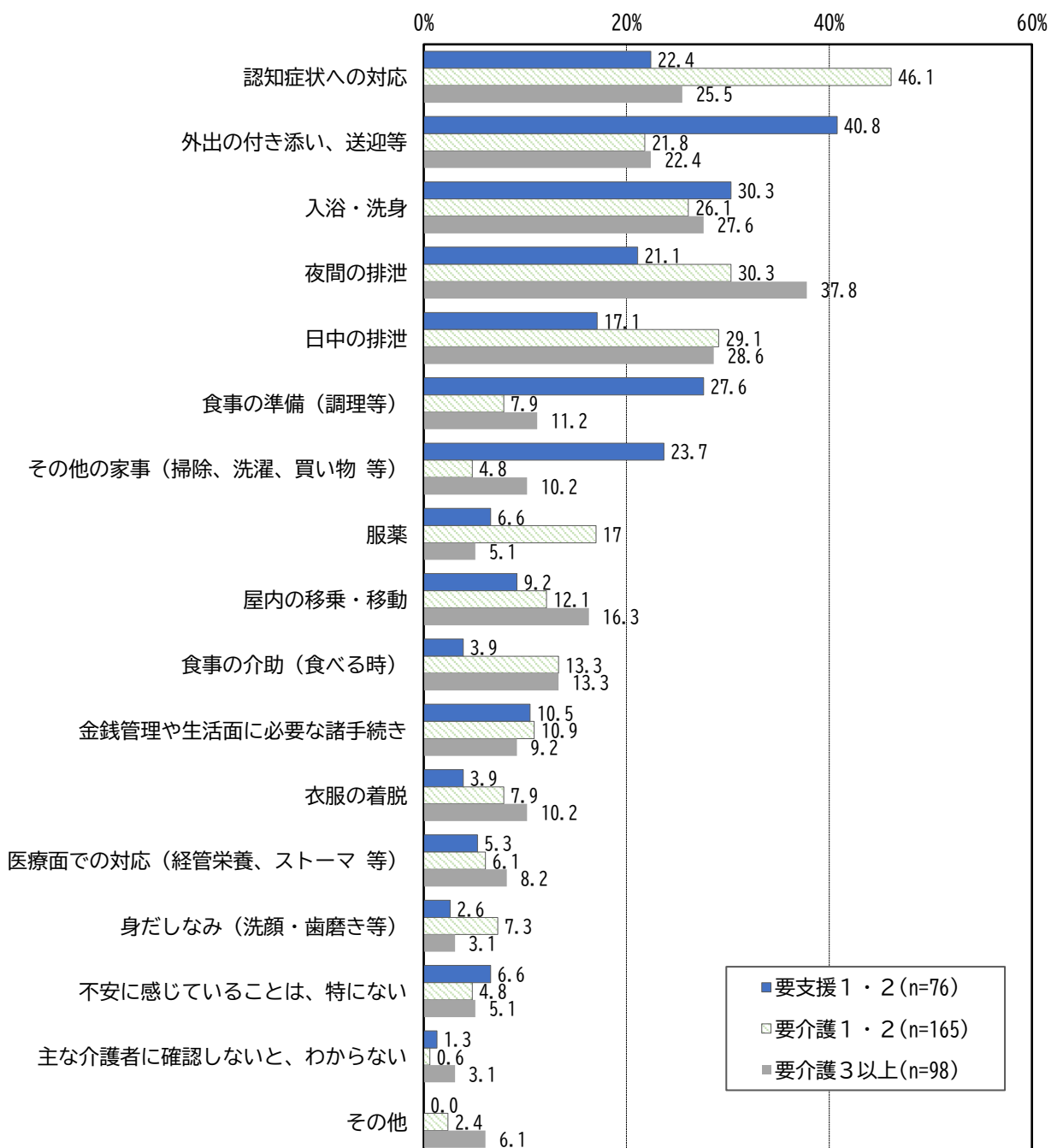
記述内容	件数
【4. 自動車の免許返納や将来の移動手段に対する不安と要望】	
免許返納後の移動手段の確保・拡充 「自動車運転ができなくなった時や免許返納後に外出手段がなくなるのが不安」「車を手放した時にタクシー・バスの補助券があると助かる」「将来、公共交通機関が普及していない町内で生活しづらくなる」「免許がなければサークル活動などもできず家にこもりがちになると思うと不安」など、将来の移動手段への強い不安と、それに備えた支援の拡充を求める声が多数寄せられています。	16
【5. 生活支援・その他の福祉サービス・環境整備に関する要望】	
日常生活・買い物などの支援 「照明の付け替えやゴミ出し代行など、高齢になると危険な家の中の困りごとサポートがほしい」「スーパーの宅配がありチラシを見て買えば助かる」「通院の付き添い券がほしい」といった生活支援の要望があります。	4
交流の場（サロン等）の設置 「いきいきサロンや認知症カフェを開設・復活してほしい」「友達と気軽に寄れて、足湯やお茶、買い物ができる場所がほしい」など、コミュニケーションの場を求める意見があります。	4
環境整備・その他の福祉サービス充実 「道が狭いため歩道の整備をお願いしたい」「産廃業者や大型トラックによる環境悪化の改善」「緊急時の見守りボタンの普及」「町立の安価な老人ホームを作してほしい」「介護用品レンタルの手引き作成」などの要望が挙げられています。	8
【6. 制度の周知・利用方法に関する意見や質問】	
利用方法の案内・周知の徹底 「使い方がよくわからない、遠慮して使いにくい」「広報等でもっと詳しく教えてほしい」「年1回は大きな文字の一覧表を配布してほしい」「あいのりタクシーの分かりやすい説明がほしい」など、制度の周知徹底を求める声があります。	9
利用や手続きの簡略化 「マイナンバーカード提示で3km圏内無料のような、誰もが利用しやすいサービスにしてほしい」「余った券を知人にあげたり、役場に行かなくても家で処分できるようにしてほしい」「自宅へ郵送してもらえる選択肢がほしい」といった意見があります。	4
【7. 制度への感謝・現状維持の希望】	
制度への感謝と継続の希望 「病院通いや買い物に大変助かっている」「近年の交通費高騰の助けになるため財政の許す限り継続してほしい」「低所得の高齢者には大変ありがたい施策」など、現在の制度に対する感謝と継続を望む声が多く寄せられています。	50
将来のための制度維持 「今は健康で自力移動できるので利用していないが、いずれ必要になる時が来ると思うので今のまま維持してほしい」といった意見も複数見られます。	8
【8. その他の意見（代替案・アンケートへの意見等）】	
商品券等による代替案 「交通手段がない地域の住民や、自家用車を利用してタクシー・バス券を使わない人には、代わりに共通商品券を手当てとして支給してほしい」「券ではなくパスにしてほしい」といった代替案が提案されています。	4
その他の要望 「インフルエンザ予防接種の無料化」「アクアプラザの無料化」「利用者が限定的だと思うので廃止でよい」「高齢者にはアンケートの問いが多すぎる」「アンケートに住所・名前まで必要か」といった意見があります。	6

第3章. 在宅介護実態調査

(1) 在宅限界点の向上のための支援・サービス提供体制

在宅生活の継続に向けて、介護者が不安に感じている介護は、要介護3以上の「夜間の排泄」、要支援1・2の「外出の付き添い、送迎等」、要介護1・2の「認知症状への対応」と回答した割合が高くなっています。特に「認知症状への対応」は、要支援1・2では22.4%が不安に感じていますが、要介護1・2では約2.1倍の46.1%に上昇しています。

介護者が不安を感じる介護（要介護度別）



(2) 仕事と介護の両立に向けた支援・サービス提供体制

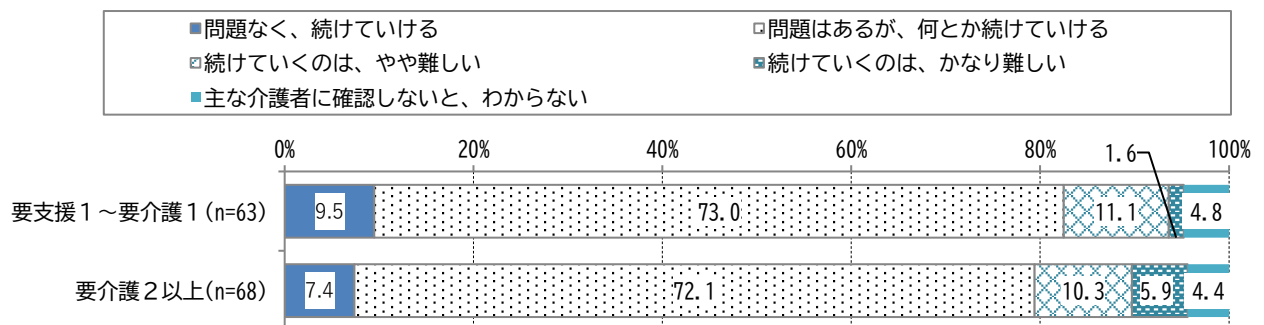
就業継続に対する意識について、「問題はあるが、何とか続けていける」との回答は、要介護度が要支援 1～要介護 1 では 73.0%、要介護 2 以上では 72.1%となっています。

就業を「問題なく、続けていける」と回答した層は要介護度が軽く、支援ニーズそのものが低い可能性があります。一方、「問題はあるが、何とか続けていける」と回答した層は支援ニーズが高いと考えられることから、介護サービスや職場の働き方調整を通じて支援すべき主な対象は、「問題はあるが、何とか続けていける」と回答した層であると考えられます。

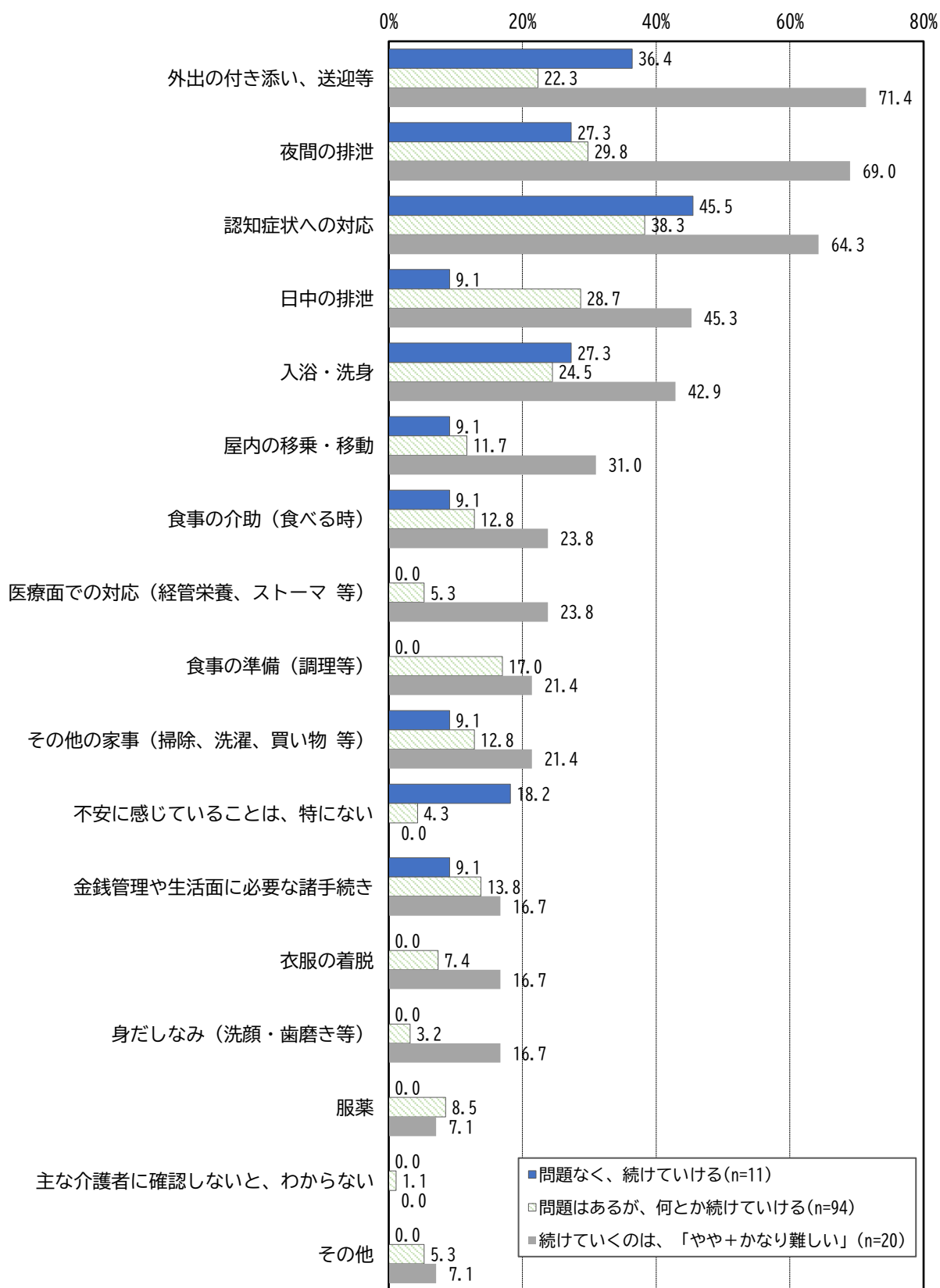
「問題はあるが、何とか続けていける層」が不安に感じる介護としては、「認知症状への対応」(38.3%)、「夜間の排泄」(29.8%)、「日中の排泄」(28.7%)、「入浴・洗身」(24.5%)「外出の付き添い、送迎等」(22.3%)と回答した人の割合が比較的高くなっています。

また、介護者の就労状況により、家族介護者が関わる介護や不安に感じる介護は異なることから、介護サービスに対するニーズもそれぞれ異なります。

要介護度別・就労継続見込み（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）

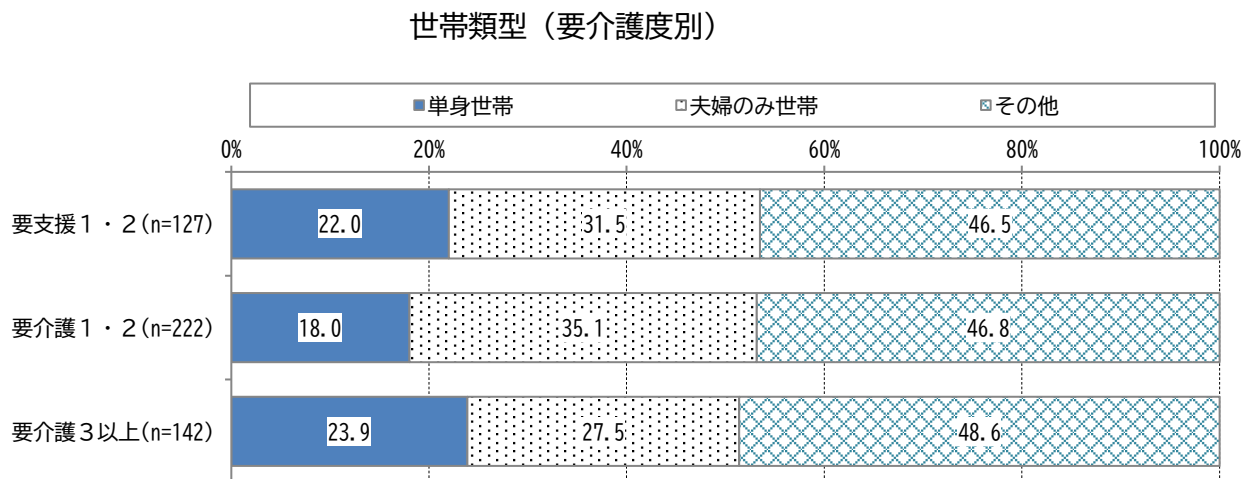
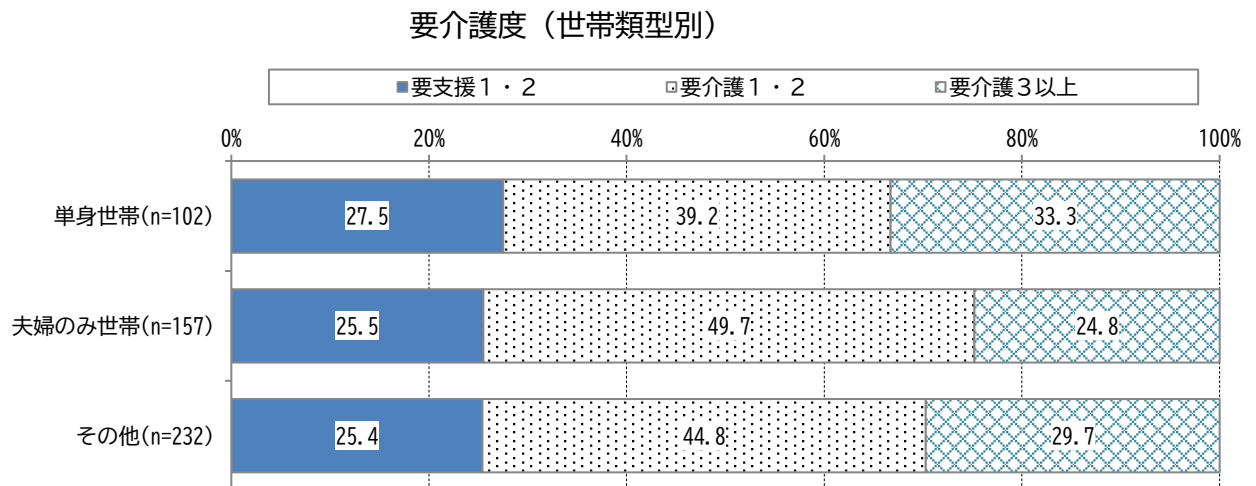


就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



(3) 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制

単身世帯の27.5%が要支援1・2であり、要介護1・2を含めると全体の66.7%が比較的軽度であることが分かります。現時点では、要介護3以上のうち、単身世帯は23.9%ですが、今後、「単身世帯」かつ「中重度の要介護者」が増加することは確実であることから、単身世帯の在宅療養生活を支えていくための支援やサービスの提供体制の構築が急務となっています。

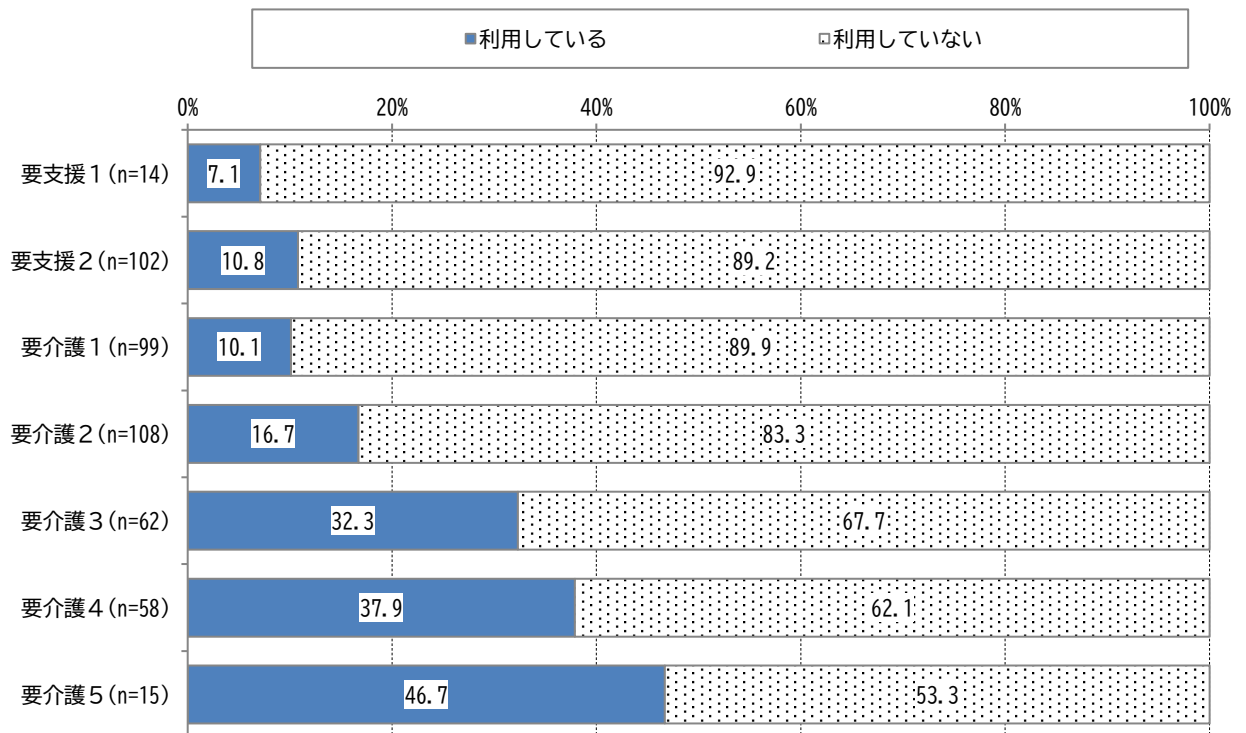


(4) 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制

要介護度の重度化に伴い、訪問診療の利用割合が増加する傾向がみられます。特に、要介護2から3にかけては、訪問診療の利用割合が1.9倍に増加していることが特徴的です。

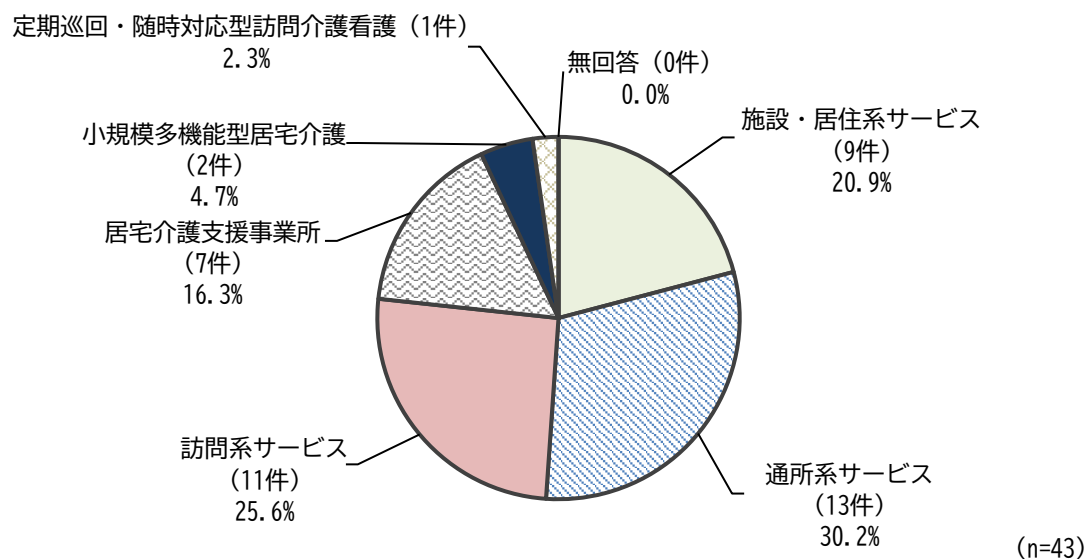
今後、介護と医療の両方のニーズを持つ在宅療養者が大幅に増加することが見込まれます。医療ニーズのある利用者に対応することができる介護保険サービスとして、通いを中心とした包括的サービス拠点の1つとして看護小規模多機能型居宅介護の整備を、訪問介護・看護の包括的サービス拠点として、定期巡回・随時対応型訪問介護看護の整備を進めていくことが必要と考えられます。

訪問診療の利用割合（要介護度別）



第4章. 介護人材実態調査

問1 該当するサービス種別（介護予防を含む）をご回答ください



- 「通所系サービス」が 30.2%で最も多く、次いで「訪問系サービス」が 25.6%、「施設・居住系サービス」が 20.9%、「居宅介護支援事業所」が 16.3%となっています。

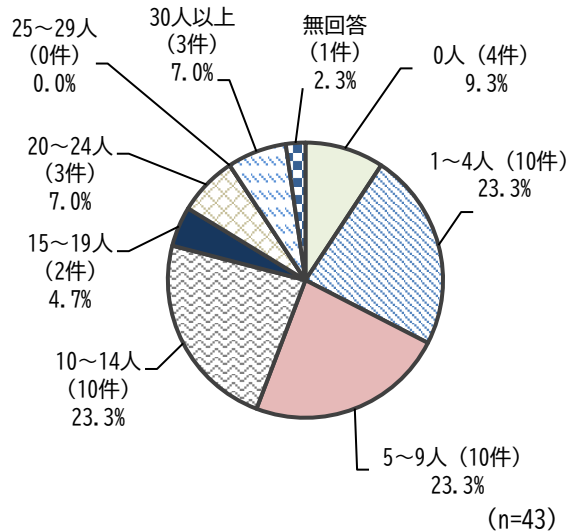
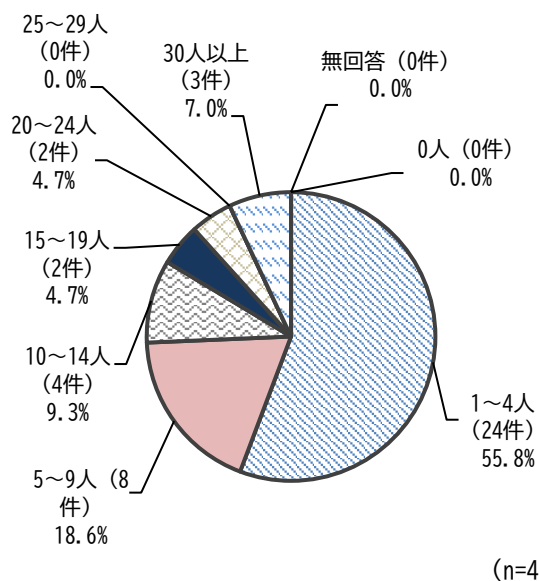
問2 貴事業所（問1で○をつけたサービス種別の事業所）に所属する職員について、お伺いします。

問2-1 所属している職員の人数を、ご記入ください

職員総数 合計

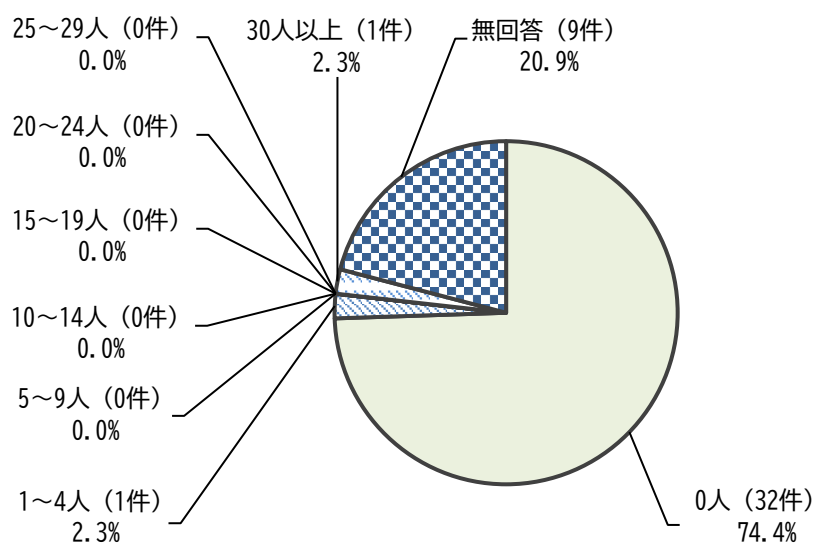
常勤職員

非常勤職員



- 常勤職員は、「1~4人」が55.8%で最も多く、次いで「5~9人」が18.6%、「10~14人」が9.3%、「30人以上」が7.0%、「15~19人」が4.7%となっています。
- 非常勤職員は、「1~4人」、「5~9人」、「10~14人」が23.3%で最も多く、次いで「0人」が9.3%、「20~24人」が7.0%となっています。

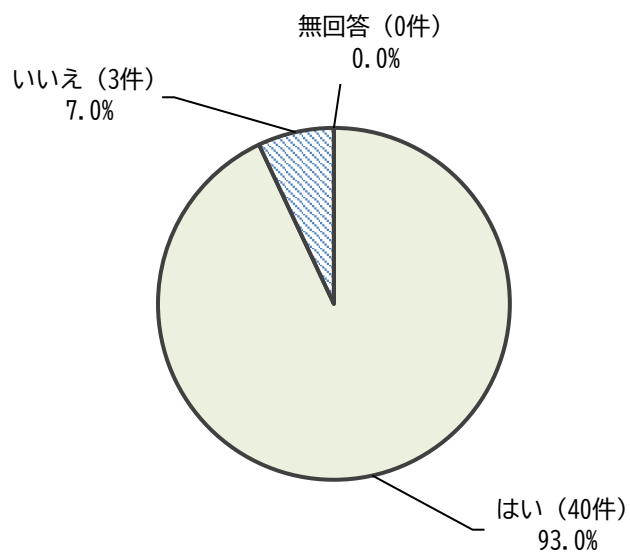
<派遣社員の総数>



(n=43)

- 「0人」が74.4%で最も多く、次いで「1～4人」、「30人以上」が2.3%、となっています。

問2-2 貴事業所の開設から1年以上経過していますか

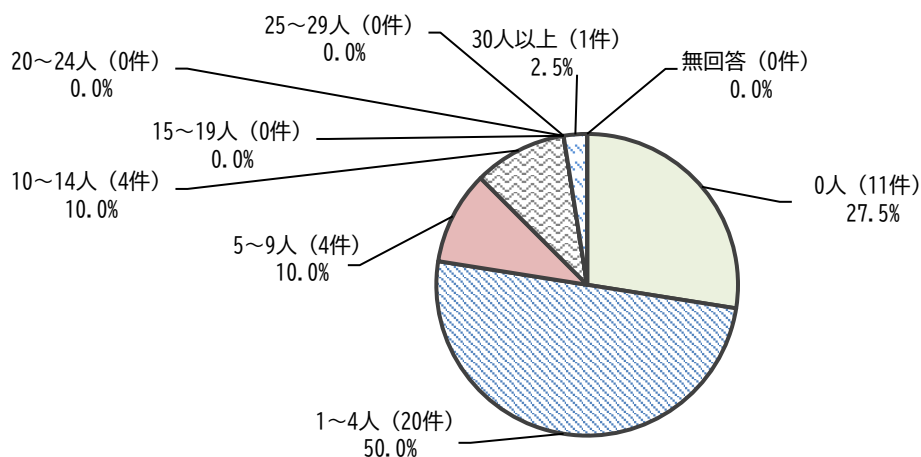


(n=43)

- 「はい」が93.0%で「いいえ」が7.0%となっています。

問2-3 令和8年1月1日時点で、開設から1年以上を経過している事業所にお伺いします。
過去1年間（令和7年1月1日～令和7年12月31日）の介護職員の採用者数と離職者数を、常勤・非常勤別にご記入ください。外国人人材も含めてご回答ください

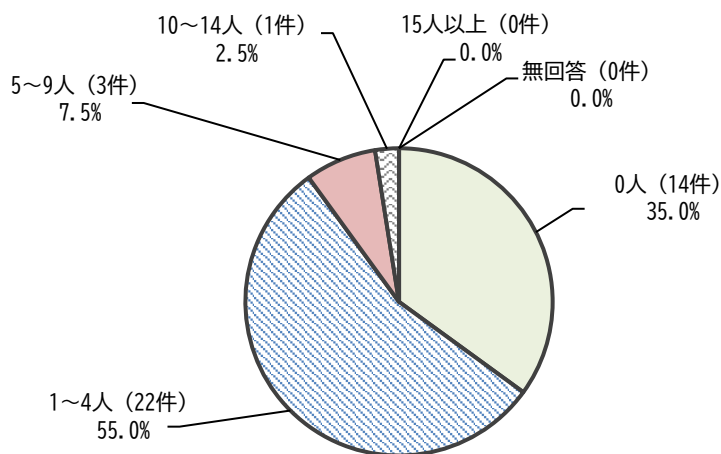
採用者数 合計



(n=40)

- 「1～4人」が50.0%で最も多く、次いで「0人」が27.5%、「5～9人」、「10～14人」が10.0%、「30人以上」が2.5%となっています。

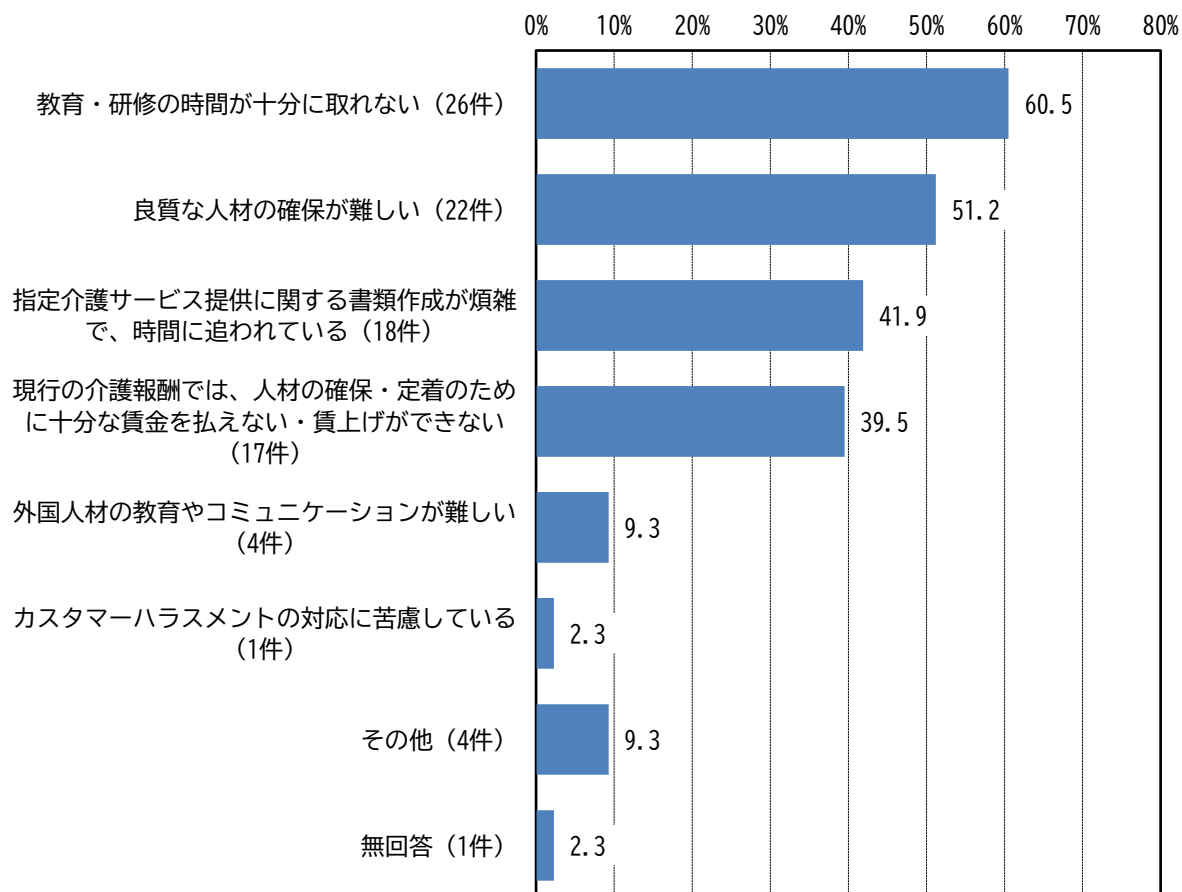
離職者数 合計



(n=40)

- 「1～4人」が55.0%で最も多く、次いで「0人」が35.0%、「5～9人」が7.5%、「10～14人」が2.5%となっています。

問3 貴事業所が事業を運営する上での課題について、該当するものを選んでください



(n=43)

- 「教育・研修の時間が十分に取れない」が60.5%で最も多く、次いで「良質な人材の確保が難しい」が51.2%、「指定介護サービス提供に関する書類作成が煩雑で、時間に追われている」が41.9%、「現行の介護報酬では、人材の確保・定着のために十分な賃金を払えない・賃上げができない」が39.5%、「外国人材の教育やコミュニケーションが難しい」が9.3%となっています。

1. 処遇改善・報酬や給付費の見直し

- 現在は人材が安定しているが退職が出る際にすぐに人材が決まらない。人材確保、定着のため賃金をあげないとこれからもっと大変になると思う。
- 事業継続、人材確保に値する報酬の見直しをお願いしたい。
- 現在の訪問看護はオンコール対応や精神的負担が大きいにも関わらず、賃金面、人員配置面で他分野との格差が大きく人材の流出が止まらない。採用しても教育に十分な時間を割けず、結果、早期退職につながる悪循環。地域での在宅医療を維持するためにも訪問看護に特化した人材確保支援、処遇改善、事務作業の簡素化など実効性のある支援を強く希望する。
- 以前までは介護職となれば、まだ高額な賃金が望めていたが、最近は最低賃金が上昇し、介護職の賃金は増額できないため、ますます介護員不足が加速する。パート・アルバイトの処遇改善のような介護員の手当になる加算も大切だが、事業所がプラス運営できるような給付費を働きかけてほしい。
- 介護離職を防ぐ社会全体のバックアップ。他産業に負けない賃金水準の確保。

2. 介護職の周知・啓発・情報発信

- 誰でも気軽に参加できるような介護教室などを開き、介護の仕事について理解いただけるように取り組んでもらいたい。
- 稲美町内にある福祉施設、事業所紹介を広報誌に載せる。
- 引き続いて情報の提供をお願いしたい。
- 介護支援専門員の雇用にどの事業所も苦勞されているかと思う。介護支援専門員という仕事を広く知って頂き興味を持ちたい仕事として発信してもらえようサポートをお願いしたい。

3. 採用活動の支援（就職説明会・マッチング・潜在層への働きかけ）

- ハローワークの連携による介護職限定面接、町内事業所優先マッチング合同就職説明会。
- 地域合同の就職フェアの定期開催。
- ヘルパーの人員確保が難しい。町内でヘルパーの資格を持っていても行使していない方はたくさんいると思う。その方たちに働きかけ、ヘルパーになるよう架け橋になってほしい。

4. 業務負担軽減・ボランティア連携

- 間接的介護業務を担ってくださる職員の確保やサポートがあれば（ボランティア、有償等）介護職員の確保が難しい中、身体介護（直接介護）に関わる時間が充分に取れると思う。
- ボランティア連携制度。
- 医療、公の書類手続きの付き添いサポート。

5. 費用補助・助成

- 事業の計画や目的を提出、精査の上、紹介手数料の補助等があれば助かる。
- 補助制度、一部負担等。

6. 教育・研修・施設運営のサポート

- 小規模多機能居宅介護施設の安定した施設運営のサポートをしていただきたい。
- 教育・研修会への支援等。

7. 稲美町独自の就労特典

- 稲美町で働く特典があっても良いかもしれない。（稲美町のお店で使えるクーポンや職員証を見せると〇〇%OFF 等）

(1) 各サービス種別の人材の採用・離職状況について

各サービス種別の採用数と離職数

(単位：人)

サービス種別	職員総数			採用者数			離職者数		
	常勤	非常勤	小計	常勤	非常勤	小計	常勤	非常勤	小計
施設・居住系	166	126	292	30	33	63	11	19	30
通所系	64	145	209	2	20	22	3	8	11
訪問系	76	98	174	14	9	23	13	9	22
居宅介護支援事業所	42	14	56	8	6	14	3	1	4
小規模多機能型居宅介護	10	24	34	2	2	4	1	0	1
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	19	22	41	8	3	11	5	3	8
合計	377	429	806	64	73	137	36	40	76

- 町内全域の介護人材は、採用者数 137 人に対し離職者数 76 人であり、全体では 61 人の純増となっています。
- 訪問系は、採用者数 23 人に対し離職者数が 22 人とほぼ同数であり、人材が定着していない状態となっています。訪問介護の担い手不足は、在宅限界を高める要因となるため、離職防止（定着支援）に向けた重点的な対策が急務となります。
- 施設・居住系は、採用者数 63 人、離職者数 30 人であり 33 人の純増です。町内における施設サービスの基盤維持・拡大に向けた人材確保が一定程度進んでいることが伺えます。

各サービス種別の職種別雇用形態人数

(単位：人)

サービス種別	介護職員			介護支援専門員			看護職員			その他			外国人	派遣職員
	常勤	非常勤	小計	常勤	非常勤	小計	常勤	非常勤	小計	常勤	非常勤	小計		
施設・居住系	108	66	174	5	2	7	21	17	38	32	41	73	32	0
通所系	31	72	103	0	0	0	5	28	33	28	45	73	4	0
訪問系	61	63	124	0	14	14	3	10	13	12	11	23	1	42
居宅介護支援事業所	0	0	0	39	10	49	0	0	0	3	4	7	0	0
小規模多機能型居宅介護	7	15	22	1	0	1	0	5	5	2	4	6	1	3
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	19	22	41	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
合計	226	238	464	45	26	71	29	60	89	77	105	182	39	45

- 看護職員は総数 89 人のうち、約 67%にあたる 60 人が非常勤職員です。特に通所系では看護職員 33 人のうち 28 人が非常勤であり、医療的ケアが必要な重度利用者への対応においては、体制の継続性に課題が生じる可能性があります。
- 町内全体の派遣職員 45 人のうち、42 人が訪問系サービスに集中しています。採用が困難な状況を派遣職員で補っている現状があり、直接雇用の促進に向けた支援が必要です。
- 外国人職員は、施設・居住系に 32 人が集中しており、施設サービスにおける貴重な戦力となっています。今後は、訪問系や通所系など他のサービス種別でも外国人材が活躍できる環境整備の検討が必要です。

(2) 外国人職員の国籍別人数と構成比について

外国人職員の国籍別人数と構成比

(単位：人)

在留資格	国籍	人員	構成比
EPA・技能実習・特定技能	ベトナム	1	2.6%
	フィリピン	0	0.0%
	インドネシア	21	53.8%
	ミャンマー	8	20.5%
	ネパール	0	0.0%
	その他	5	12.8%
在留資格「介護」	ベトナム	0	0.0%
	フィリピン	0	0.0%
	インドネシア	0	0.0%
	ミャンマー	2	5.1%
	ネパール	0	0.0%
	その他	2	5.1%
合計		39	100.0%

- 外国人職員（39人）のうち、インドネシア出身者が21人（53.8%）と過半数を占めています。特定の国に依存する現状は、現地の情勢や制度変更の影響を強く受けるリスクがあるため、他国（ミャンマー等）からの受け入れをしている現状があります。
- 日本の国家資格を有する在留資格「介護」の保持者は4人（10.3%）に留まっており、多くは技能実習や特定技能等の時限的な在留資格の方です。地域に根ざした介護人材として定着してもらうためには、技能実習生等が介護福祉士資格を取得し、在留資格「介護」へ移行するための学習支援（日本語教育等）が重要な施策となります。

稲美町高齢者福祉計画・第10期介護保険事業計画
アンケート調査結果報告書
(概要版)

令和8年3月

発 行 : 兵庫県加古郡稲美町 健康福祉課
企画・編集 : 兵庫県加古郡稲美町 健康福祉課